



東京精密

CSR 報告書 2019



## 編集方針

東京精密グループは「持続可能な社会の実現」に向けて果たすべき責任や役割を摸索するために、2015年4月に社長直轄のCSR推進室を設置し、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) 活動に踏み出しました。事業活動を通じた社会課題解決とその先の社会価値の創出、企業としての経済価値の向上を実現するために、2018年5月に発表した中期経営計画においてサステナビリティの取り組みを重点事項として位置づけています。顕在するあるいは潜在する全てのステークホルダーの皆様に企業活動を開示することを目的としてCSR報告書を発行しました。

この報告書をステークホルダーの皆様とのコミュニケーションツールとして活用し、ご評価やご意見、ご感想をいただくことで、取り組み始めたCSR活動をより実効性の高い活動へと育てていきたいと考えています。

## 本報告書の対象範囲

対象期間： 原則2018年4月1日～2019年3月31日の活動を報告。  
報告対象期間以前から継続している取り組みや、直近のものも含まれます。

対象組織： 株式会社東京精密  
半導体社 八王子工場 (東京都八王子市)  
計測社 土浦工場 (茨城県土浦市)  
業務会社 (東京都八王子市)  
半導体社 営業所 (国内3営業所)  
計測社 営業所 (国内14営業所)

関連会社： 株式会社東精エンジニアリング (茨城県土浦市、愛知県みよし市)  
株式会社トーセイシステムズ  
株式会社東精ボックス  
株式会社アクレーテック・パワトロシステム

原則(株)東京精密グループを対象とし、報告対象が限定されている報告については、個別に報告範囲を記載しています。  
報告書発行：2019年10月(次回：2020年10月予定、前回：2018年10月)



## 追加情報の入手先


- ▶ 東京精密のCSRのページ <https://www.accretech.jp/csr/index.html>
- ▶ 東京精密の製品情報 <https://www.accretech.jp/product/index.html>

以下の資料がダウンロードできます。

- ▶ 会社案内 <https://www.accretech.jp/company/guide.html>
- ▶ 各種財務データ <https://ir.accretech.jp/ja/index.html>
- ▶ CSR報告書 <https://www.accretech.jp/csr/index.html>

# CONTENTS

ごあいさつ .....	4
東京精密の CSR の考え方 .....	6
ACCRETECH グループ行動規範 .....	8
東京精密の会社概要 .....	9
コーポレート・ガバナンス .....	10
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス	
リスク管理	
お客様とのかかわり .....	14
品質管理の取り組み	
製品品質の維持・向上	
グローバルで細やかなサポート体制	
顧客満足追求の取り組み	
サプライヤとのかかわり .....	18
調達にあたっての基本的な考え方	
サプライチェーンの強化	
従業員とのかかわり .....	20
雇用・人材育成	
労働安全衛生	
株主・投資家とのかかわり .....	25
株主・投資家向け情報開示の考え方	
積極的な IR 活動	
地球環境とのかかわり .....	26
環境における基本的な考え方	
エコプロダクツ	
エコファクトリー	
化学物質管理	
環境負荷の全体像	
環境保全活動の歩み	
社会とのかかわり .....	32
地域社会の環境奉仕活動	
業界団体とのかかわり	
グループ会社紹介 .....	34
ISO26000 対照表 .....	37



東京精密グループは  
“夢のある未来”を築く  
一員であり続けます。

代表取締役社長CEO

荒田 均

## 企業理念：

世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して、世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく

## MOTTO：

「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう！」

## コーポレートブランド：

**ACCURETECH**

“Accrete (共生)”と“Technology (技術)”の合成語で、**Grow Together** を意味しています。

東京精密グループは、創業当初から今日に至るまで、多くのビジネスパートナーの方々に支えられて成長してまいりました。改めて厚く御礼申し上げます。

近年世界レベルで、持続可能な社会の実現に向けた取り

組みが進められています。

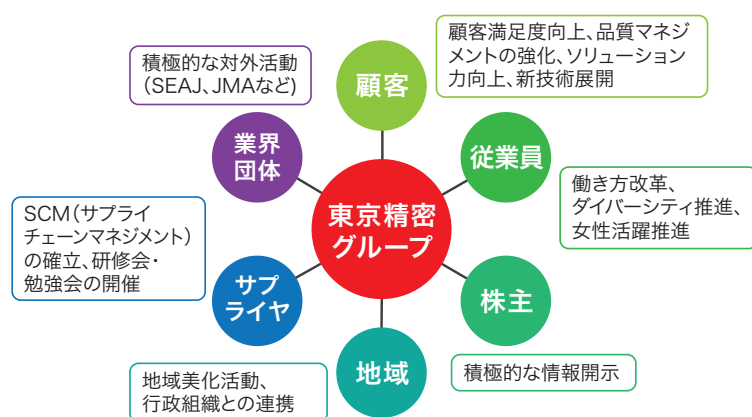
当社も社会の一員として、持続可能な社会の実現に向けて積極的なCSR活動を推進してまいります。

2015年にCSR活動推進のための組織・仕組みを構築し、

RBA行動規範(旧EICC)やISO26000(CSRガイドライン)を基準とした活動を開始しました。

当社の企業理念と価値観及び社会的責任や役割りをステークホルダーの皆様にご理解いただく目的で2016年よりCSR報告書を発行してまいりました。

多くのステークホルダーの皆様とWIN-WINの関係を深めて企業価値の向上と世の中への貢献を目指して活動してまいります。



## ステークホルダーとのかかわり

当社は『世界No.1の商品を創る』という目的を共有できる企業及び人材と積極的にパートナーシップを結び、ナノテクノロジーレベルの画期的な新製品開発を実現しています。

協業を成功させるために、『WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう!』というモットーのもと、異文化を包摂したグローバルかつハイブリッドな東京精密 (ACCRETECH) の文化風土を醸成し、世界No.1の製品開発体制の構築に努めている技術志向型の会社です。

2001年に導入したコーポレートブランド『ACCRETECH』は『ともに成長する』という意味の“Accrete”と“Technology”の合成語で、『世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の製品を創りだし、皆様と大きく成長していく』という企業理念を表したものです。

この理念に基づいて、世界のものづくり企業様に最先端の精密測定技術を駆使した測定機器と精密位置決め技術を活かした半導体製造装置を提供してまいりました。今後ものづくりの原点として『測れないものは作れない』の考えを通し、グローバル社会と地球環境に優しい価値ある技術・サービスの提供に真摯に取り組んでまいります。

## ESG取り組み方針

社内で行っていますE(環境)S(社会)G(ガバナンス)の取り組みにつきましては、特に重点的な活動について決算説明会等でご説明をしています。

社員全員が認識し積極的な活動を行うために社内の目標に掲げ、またCSR報告書でもその進捗をご報告しています。

2018年度は過去の震災による大きな災害を振り返り、事業継続に必要なことを再認識し事業継続計画(BCP)の見直しを行いました。また、これに基づき各工場のBCPを策定し対策を進めました。

働き方改革でダイバーシティを推進し特に女性活躍推進に注力しました。

今年度は、健康経営の取り組みを進め社員の健康を促進し、健全な仕事環境を実現し生産性の向上も実現して行きたいと思っております。

世界中の各社が国際社会の『環境負荷が少なく、健康・安全で快適な暮らし』のニーズに応えるべく新たな“ものづくり”を目指す中、不可能を可能にする生産手段を提供することでこれらのニーズを実現するのが東京精密グループの社会的役割であると考えています。

東京精密グループは新たな価値創出の壁をお客様やサプライヤ様とともに全員力で越えて行く技術集団であり、常に世界中の“ものづくり共同体”のメンバーとして“夢ある未来”の一員であり続けます。

株主・投資家の皆様へは、引き続き、業績・財務内容・経営戦略などの情報を正確に、分かりやすく、タイムリーにお伝えし、企業活動の透明性とガバナンスを向上させてまいります。企業価値の向上と“夢のある未来”の実現を通して、皆様が安全に資産価値を高められるよう、長期的な信頼関係を築いてまいります。

### Environment (環境)

- ・環境考慮製品:LCAを考慮した環境配慮型製品の開発
- ・温暖化防止:CO2排出量削減
- ・資源削減:水使用量削減、廃棄物リサイクル率向上

### Social (社会)

- ・品質向上:変更管理プロセスの強化・QMS活動
- ・作業安全:事故率改善
- ・サプライチェーン:当社方針に基づき、サプライヤと協力してESGの強化改善を実施
- ・他:働き方改革(女性活躍推進等)、コンプライアンス、八王子/土浦市アドプト活動

### Governance (ガバナンス)

- ・グループ行動規範:全拠点への教育、浸透、見直し
- ・コンプライアンス:順守体制の構築、教育、見直し
- ・情報セキュリティ強化:社内管理システム強化、点検体制、管理教育

※ESGにおける取り組み方針については、見出しに★マークをつけています。

## ESGにおける取り組み方針

# 東京精密のCSRの考え方

東京精密グループは、世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していくという企業理念を原動力に、お客様であるものづくり企業やサプライヤ様を始めとする、あらゆるステークホルダーとの協働を進め、持続可能な社会の実現を目指します。

MOTTO

WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう！



風力発電

## ACCRETECH



精密測定機器



サプライヤ

新たな価値をともに  
創出するパートナー



電装品



小型部品



材料

企業理念

世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく

## 最終製品

東京精密が支える  
ものづくり企業



スマートフォン



飛行機



次世代ロボット



自動車

## 半導体製造装置



測る技術で  
ものづくりを支え  
社会を支える

## 持続可能な 社会の実現



東京精密グループはこれまで、お客様であるものづくり企業における高効率製品の生産プロセスに不可欠な精密測定機器と、省エネ・省資源に通じる電化製品の生産に寄与する半導体製造装置で、社会の利便性の向上と環境負荷低減に貢献してきました。これは、東京精密グループの提供する「測る技術・製品でお客様のものづくりを支え、そこから生み出された最終製品の数々が社会全体を支えている」ことを意味します。

私たちが製品を通じて社会にさまざまな価値を提供し続けていくためには、中長期的な視点を持ってお客様とその先の社会のニーズを把握するとともに、東京精密の企業理念に共感してくださる多くのサプライヤ様との協働が不可欠です。

これからも、ステークホルダーの皆様とのWIN-WINの関係を礎に新たな技術を創出し、生活の質の向上、環境の維持・改善をもたらすものづくりで社会を支えていくとともに、培った技術を活かして安心・安全を提供できる新たなフィールドに進出し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

また、今後もステークホルダーの皆様と成長し続けるため、企業活動の全プロセスにおける人権の尊重、地球環境へ与える影響等について評価を行い、東京精密グループが負う責任を自覚し、社会的役割の確実な遂行に努めます。その一環として、CSR報告書においてはありのままの東京精密を開示し、ステークホルダーの皆様と様々なコミュニケーションを図っていきたく考えています。



# ACCRETECH グループ行動規範\*

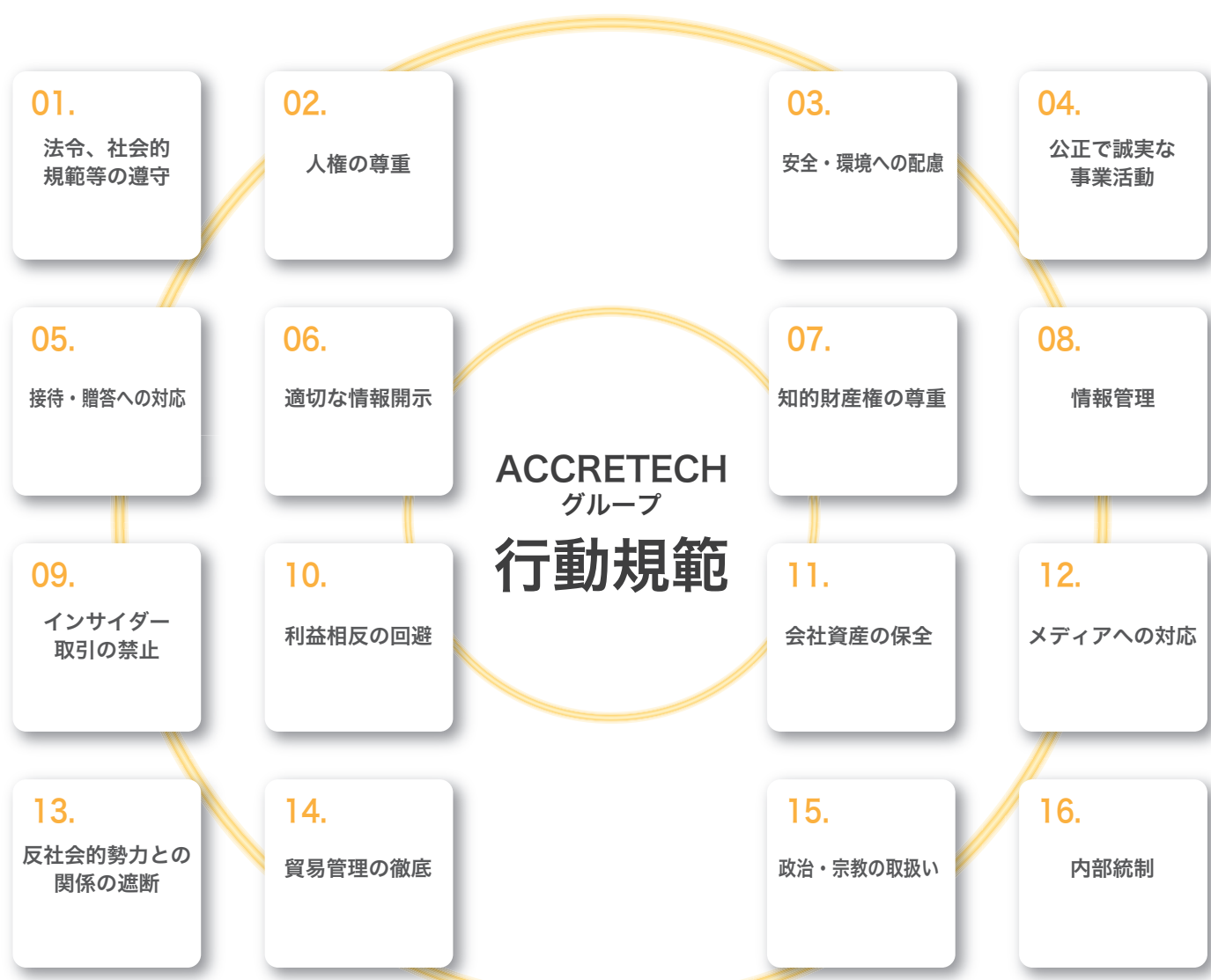
お客様、株主・投資家の皆様、サプライヤ様等、全てのステークホルダーの方々との間で WIN-WIN の関係を創りあげ、共に長期的に持続的発展を遂げていくためには、東京精密グループが事業活動を行う社会に受け入れられる行動を取らねばなりません。

東京精密グループでは、法令・社内規程等の遵守、人権の尊重、公正誠実な事業活動、倫理的行動など、役員・社員が遵守すべき「ACCRETECH グループ行動規範」（以下、「グループ行動規範」という）を制定し、透明性の高い清潔な企業姿勢を保ち、コンプライアンス管理体制を構築し、コンプライアンスを推進していきます。

東京精密グループは役員・社員に対しグループ行動規範遵守に関する教育・啓蒙を行い、グループ行動規範遵守意識の向上を図っていきます。

また、関係するステークホルダーの方々にもグループ行動規範について理解と協力が得られるよう努力していきます。

グループ行動規範の示す行動指針の概要は以下の通りです。





# 東京精密の会社概要



東京精密は、半導体製造装置、精密測定機器を事業の柱として、アジアを中心に欧州、米国など、グローバルに事業を展開しています。世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長し続けることを目指します。

## ■ 会社概要

社名	株式会社 東京精密
本社所在地	東京都八王子市石川町2968-2
設立年月日	1949年3月28日
代表者	吉田 均
資本金	10,591百万円(2019年3月31日現在)
証券取引所	東京証券取引所市場第一部
売上高(連結)	101,520百万円(2018年度)
経常利益(連結)	20,805百万円(2018年度)
従業員数(連結)	2,119名(2019年3月31日現在)
事業所	八王子工場、土浦工場 ほか国内17営業所、海外拠点66カ所、国内グループ会社6社等

## ■ 取扱製品



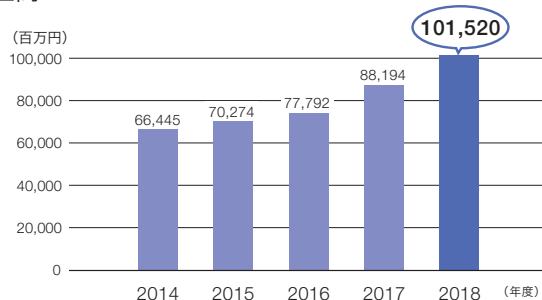
半導体製造装置



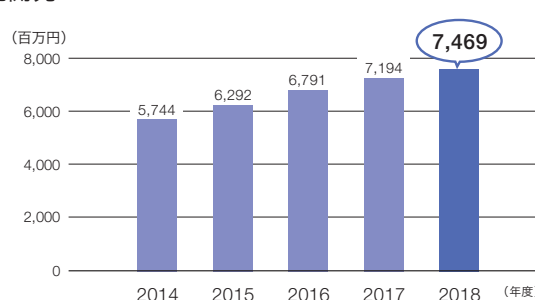
精密測定機器

## ■ 財務データ(連結)

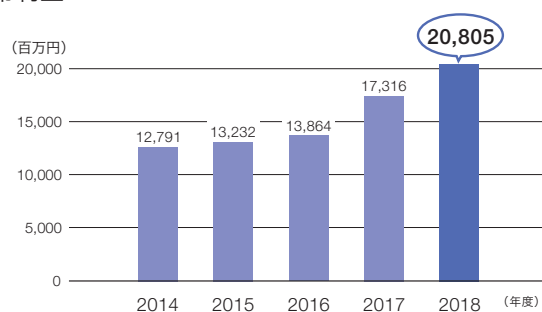
### ▶ 売上高



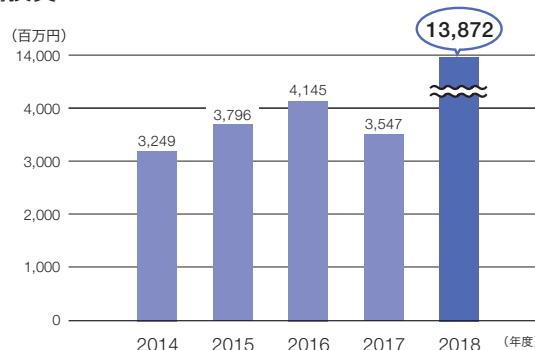
### ▶ 研究開発



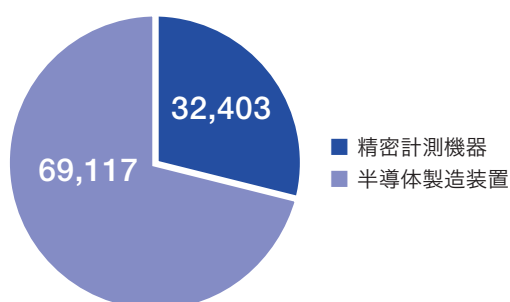
### ▶ 経常利益



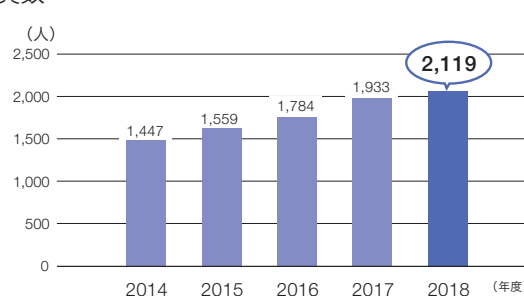
### ▶ 設備投資



### ▶ 2018年度の事業別売上高(百万円)



### ▶ 従業員数





東京精密グループは、透明性の高い経営システムの構築及び運営に努め、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指します。

## コーポレート・ガバナンス

### ■ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

東京精密グループは、『世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく』ことを企業理念としています。この企業理念をコーポレートブランド『ACCRETECH(アクレーテック)\*』のもとで実践することで、持続的な成長を実現し、企業価値を高めていくことを目指しています。

その実現のためには、国際社会から信頼される企業市民として、公正で透明性の高い経営活動が不可欠と考え、基本方針を掲げて取り組んでいます。

\*ACCRETECHは「ACCRETE(共生)+TECHNOLOGY(技術)」からなる当社固有の合成語

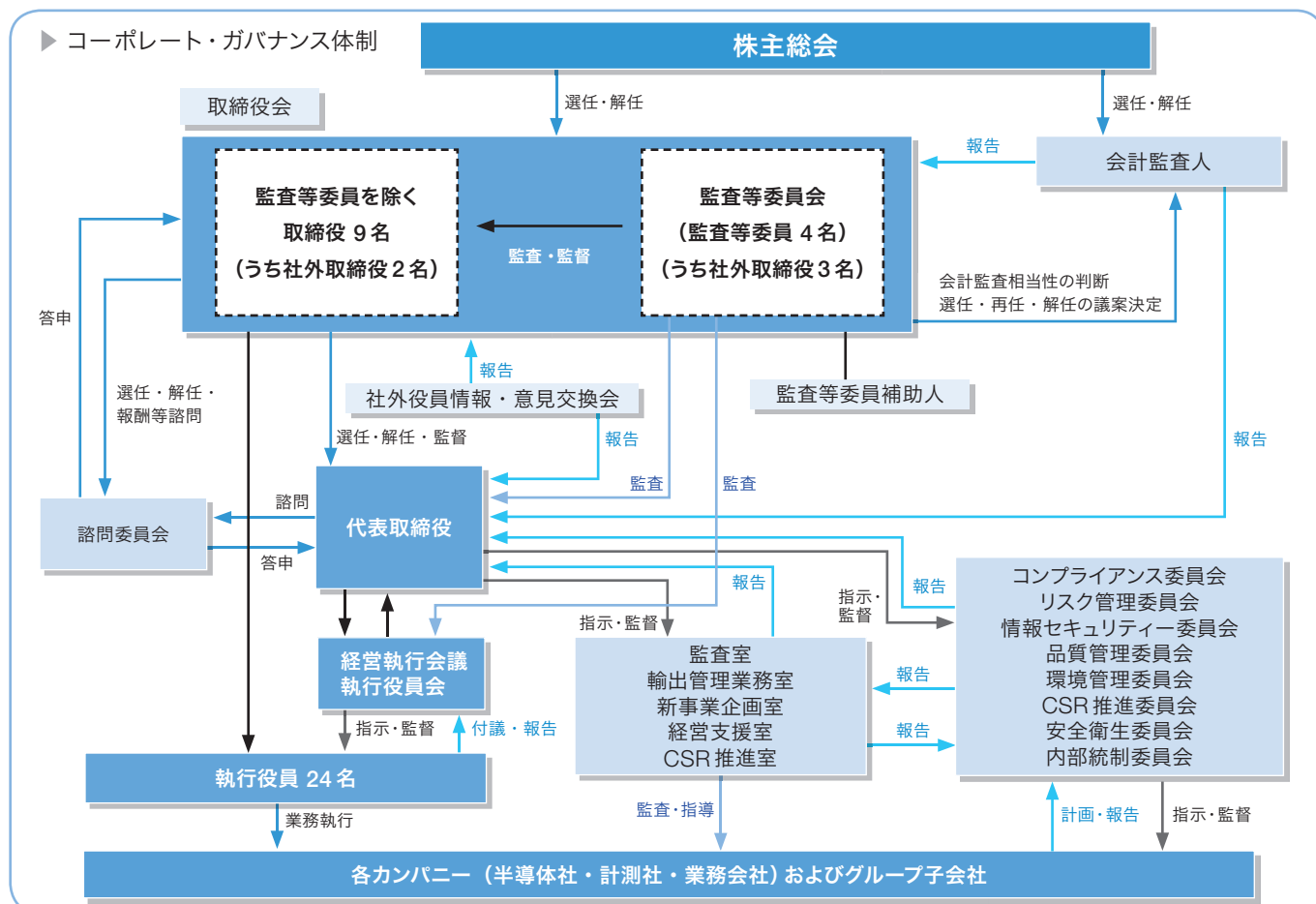
### 基本方針

1. 透明性・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うため、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
2. 株主の権利を尊重し、株主の平等性の確保に努めます。
3. 中長期的な株主利益を尊重する投資方針と株主との建設的な対話に努めます。
4. 株主以外のステークホルダー（お客様、サプライヤ様、従業員、債権者、地域社会等）との適切な協働に努めます。
5. 適切な情報開示と透明性の確保に努めます。

コーポレートガバナンス報告書の全文は当社ホームページからダウンロードしていただけます。  
<http://www.accretech.jp/company/basicpolicy.html>

### 監査等委員会設置会社への移行

当社は、2019年6月24日開催の第96期定時株主総会で決議承認され、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。監査等委員会を設置し、監査等委員である取締役（複数の社外取締役を含む。）に取締役会における議決権を付与することで、監査・監督機能の強化を図るとともに、コーポレート・ガバナンス体制をより一層充実させ、更なる企業価値向上を図るものです。



## ■ 内部統制に関する考え方と体制

コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組むとともに、経営の健全性と透明性を担保するために、内部統制の体制とシステムを強化しています。

業務執行全体を適正かつ健全に行うために、取締役会が実効性ある内部統制システムの構築と法令・定款遵守の体制を確立しています。また、監査等委員会は内部統制システムの有効性と機能を監査しています。

社長直轄の組織として設置している監査室では、東京精密グループの業務執行に対し、内部統制に関わる法令・定款及び会社規定等への準拠性、管理の妥当性の検証を目的とした内部監査を実施しています。IT統制についても、監査室が他部署・チームと協働して監査を実施しています。

また、監査室は東京精密グループの財務報告に関わる内部統制の運用について、その有効性の評価を実施し、確認を行っています。

監査室の内部監査により、法令・定款及び会社規定等への違反またはその他の事由に起因したリスクが認められる業務執行行為が発見された場合には、監査室は直ちに社長に報告し、取締役会に対処にあたります。

内部監査は、取締役会に承認された年間計画に基づいて実施され、その結果が速やかに社長に報告されるほか、取締役会や経営執行会議においても報告されます。また、監査結果や改善点については、社内関係部署に情報共有されます。

内部統制システムの基本方針に関する詳細は当社ホームページに掲載しています。

[http://www.accrettech.jp/company/internal\\_control.html](http://www.accrettech.jp/company/internal_control.html)

## コンプライアンス★

### ■ コンプライアンスに関する基本的な考え方

東京精密グループは、全てのステークホルダーからの期待に応えられるよう、法令や社会的規範を遵守し、誠実かつ倫理的に行動することとしています。そのために、全ての役員・従業員が良き企業人、良き市民としての自覚を持ち、高い倫理観をもって良識に従って行動できるよう、コンプライアンス管理体制を構築し、コンプライアンスに係る方針や規程を整備し、教育研修等により周知徹底を図っています。

コンプライアンス遵守状況の経常的な把握に努めるだけでなく、内部通報制度を設けることで、役員・従業員がコンプライアンスに係る事案を把握した場合に相談・報告できるようにし、コンプライアンスに係る問題の早期把握にも努めています。

### ■ コンプライアンス管理体制

東京精密グループのコンプライアンスに関する取り組みの管理

組織として『コンプライアンス委員会』を設置しています。コンプライアンス委員会のメンバーは、取締役・執行役員を中心に、生産・技術担当役員、人事担当役員、グループ会社役員等で構成されています。

コンプライアンスに係る基本方針である『ACCRETECHグループ行動規範』の改定や諸規程の制改定、コンプライアンスに係る教育・研修の計画や取り組み状況等の報告・審議とともに、法令や諸規程等への違反もしくは抵触の恐れがある場合は、速やかに報告を行い、対応策や再発防止策の審議等を行っています。

2018年度も『コンプライアンス委員会』は報告・審議の場として問題なく機能し運営されました。

### ■ コンプライアンス教育

コンプライアンスの徹底には、守るべき法令・ルールの理解と、守らなければならないという意識を、全ての役員・従業員に周知徹底することが重要です。

東京精密グループでは、コンプライアンスに係わる知識の充実とコンプライアンス意識レベルの維持向上のために、さまざまな教育の機会を設けています。『新入従業員研修』や『管理職研修』等、階層別の研修機会を捉えた教育とともに、日本国内においてはe-learningによる研修の仕組みも導入しています。

生産現場の安全衛生研修での関係法令遵守教育や品質・環境管理に関する法令遵守教育や品質・環境管理に関する法令遵守教育等の業務分野や部署による教育にも努めています。

コンプライアンスに係る教育の計画と実績については『コンプライアンス委員会』で以前より定期的に報告をしており、2018年度においても教育は計画通りに実施されました。

### ■ 内部通報制度

内部通報制度としてコンプライアンス相談窓口を2006年度より設置し運用しています。

相談窓口は①内部通報窓口(コンプライアンス委員)②人事相談室③社外弁護士④社外取締役⑤監査等委員である取締役と社内外に設けられ、通報者の匿名性の確保とプライバシー保護を徹底するとともに、通報者の不利益にならないように配慮しています。

2018年度の内部通報実績で東京精密グループの事業活動に影響を与えるようなコンプライアンスに係る問題はありませんでした。

### ■ 法令等遵守状況

2018年度、内部監査・外部監査による評価を実施した結果、東京精密グループの財務報告の適正さ、製品の品質・環境に対する取り組み等に関し、不正行為、法令違反、コンプライアンス違反等の事業活動に影響を与える問題はありませんでした。



## リスク管理

### ■ リスク管理に関する考え方

#### リスク管理方針

東京精密グループの事業を取り巻く潜在的なリスクの発生予防と顕在化したリスクに対応する。

(リスク管理方針)

1. 東京精密グループは、潜在的なリスクの発生予防に努めるとともに、リスクが顕在化したときは、代表取締役社長C.E.O.以下全社員が一丸となって迅速かつ冷静に対応する。
2. リスクが顕在化したときは、人命の保護・救助を優先させる。

(リスク項目とリスクの内容)

事業を取り巻くリスクとは以下の場合を想定している。

- (1) 自然災害や突発的事象発生リスク(地震、火災、風水害、テロなど)
- (2) 経済や金融市場の動向によるリスク(景気動向、為替レートの変動など)
- (3) お客様の投資動向変化のリスク(半導体業界、自動車業界の変動など)
- (4) 競合他社や業界の動向によるリスク(価格競争、開発競争、知的財産権など)
- (5) 公的規制、政策、税務に関するリスク(カントリーリスクなど)
- (6) 人的資源に関するリスク(労働災害、不慮の事件・事故など)
- (7) 資本提供者に関するリスク(株式所有の変化など)
- (8) ITシステムに関するリスク(ITシステムの不具合など)
- (9) 製品・サービスの品質に関するリスク
- (10) その他事業遂行上のリスク

### ■ リスク管理体制

東京精密グループのリスク管理に関する取り組みの管理組織として『リスク管理委員会』を設置しています。リスク管理委員会のメンバーは、代表取締役社長CEOを委員長とし、委員長の選任を受けた執行役員とグループ会社役員で構成されています。各リスク主管部署より、潜在的なリスクの発生予防について報告を求め、必要に応じて取締役会に報告するとともに、リスクが顕在化した場合には、直ちに『リスク対策本部』を設置します。

### ■ リスクに対する取り組み

#### 事業継続計画(BCP)

東京精密は「事業継続方針」に則り、事業継続計画および工場BCPの見直しとチューンアップを行っています。2018年度は、各カンパニーおよび工場毎に脅威発生時の被害想定と現行対策の脆弱性分析を改めて行った上で、総務、生産管理、製造、IT等の各部門レベルでの実務面からのBCPやマニュアルの見直し・詳細化や補強を実施しました。また、基本方針である「従業員とその家族の安否確認・安全確保」を全うする観点から、避難と防災対応の基本について、避難訓練の実施を通じて運用の再確認を行い、課題抽出と追加対策を実施しました。更に国内各子会社の事業継続計画について、親会社方針に沿った組織体制、優先事業、親会社との連携を通じた運用体制を策定しました。今後とも、BCPの継続的・定期的な見直しと充実に努めてまいります。

東京精密グループでは、災害・事故発生時に携帯電話やスマートフォンから安否状況を確認する「安否確認システム」を導入しています。社員入社時の説明を徹底するとともに、実効性の確認および全社員への認知度向上のための年2回の「安否確認システム稼働訓練」の実施並びに結果報告、メールアドレスの登録者未済者や無効アドレスのトレースを月次で実施しています。

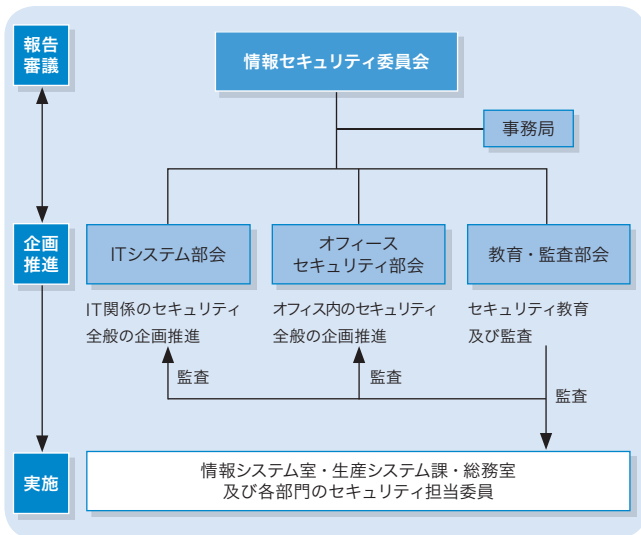
#### 情報セキュリティ

経営のグローバル化・情報化の進展に伴い、知的財産(特許・営業秘密等)の情報管理の重要性が増し、企業の体制整備と管理強化が求められています。

東京精密では、2004年に取締役会が選任する委員長を最高責任者とする情報セキュリティ委員会を設置し、知的財産権取得・管理、営業秘密管理、技術流出防止等、情報セキュリティ強化に努めてきました。

情報セキュリティ委員会には下部組織としてITシステム部会、オフィスセキュリティ部会、教育・監査部会を設置し、ITシステム部会は主にIT機器に関するセキュリティ、オフィスセキュリティ部会は主にオフィス等業務運用上のセキュリティ、教育・監査部会は教育、啓蒙及び活動状況の監査を中心に定期的な活動を実施しています。

▶ 情報セキュリティ委員会と機能

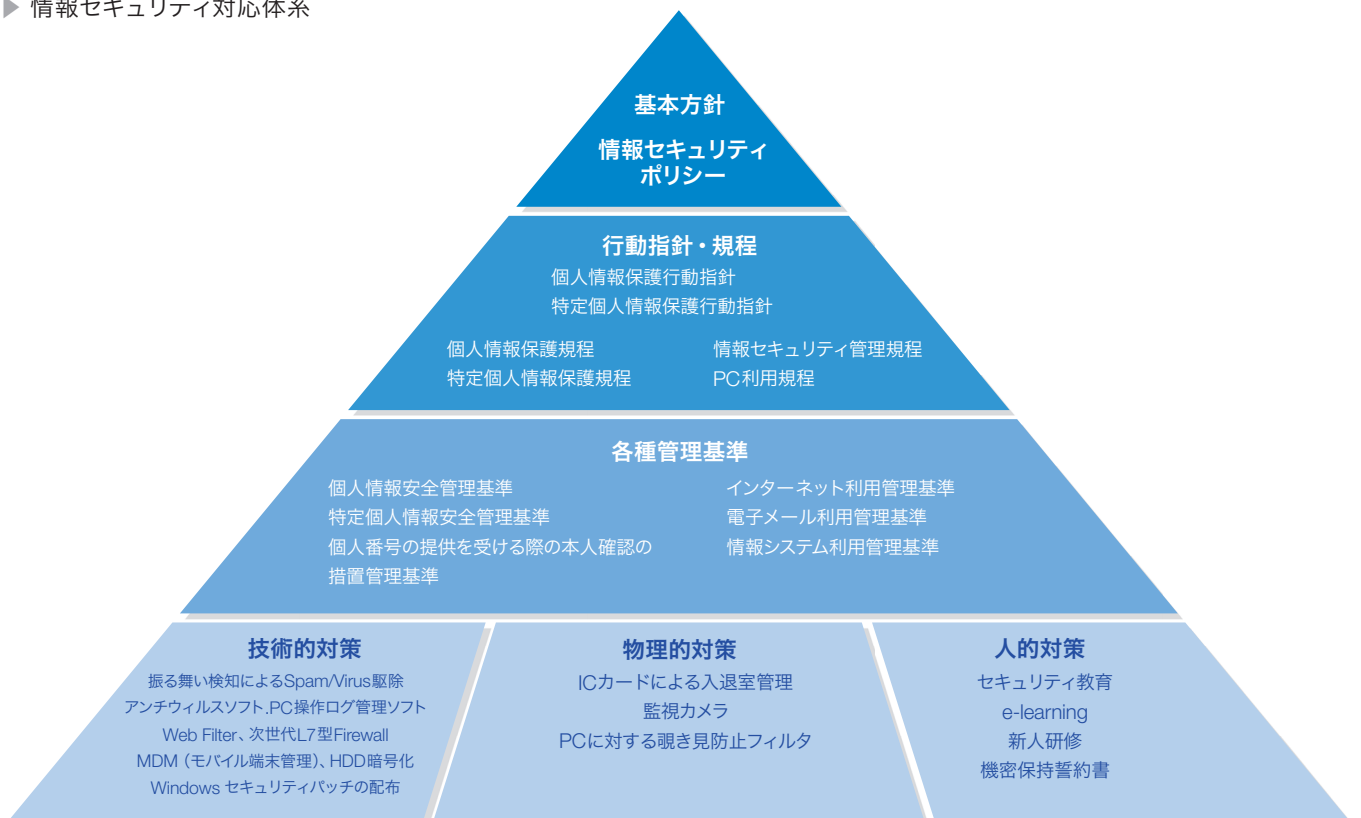


情報セキュリティ対策

昨今のインターネット環境は日々新しいリスクと対峙していく必要があります。当社では情報セキュリティ委員会を中心として各種規程の整備・維持活動を実施すると同時に人的教育、技術的対策、物理的対策を実施しています。

人的教育は、毎年定期的に全従業員を対象とした情報セキュリティ教育の受講を義務づけ、最新の注意点や情報セキュリティに関する最新動向を教育啓蒙し情報漏洩の抑止に努めています。技術的対策としてはネットワーク上のセキュリティ機器による挙動不審パケットのバケット分析、監視、対策の体制を整えています。また、PCやスマートフォンに対しては各種エンドポイントセキュリティソフト、ログ取得ソフト、暗号化ソフトの導入、MDM（モバイル端末管理）の導入等によりセキュリティ事故の未然防止に努めています。

▶ 情報セキュリティ対応体系





お客様の声に真摯に耳を傾け、日々たゆまぬ改善を続けながら、最先端技術を駆使した半導体製造装置・精密測定機器の供給と充実したサポートでお客様のものづくりを支え、持続可能な社会の実現に貢献します。

## 品質管理の取り組み

### ■ 品質に関する基本的な考え方

東京精密が提供する製品は生産設備であるという性質上、その『品質』は「安定で信頼できる製品の品質」と「迅速かつ細やかなサポート品質」と考え、常にこれらの『品質』の改善に努めています。

安定した高い品質やサービスの提供こそが、お客様の社会的地位や利益を守り向上させていく当社の責任であることを常に念頭において、品質改善の活動を実施しています。

「製品品質の維持・向上」「グローバルで高機能なサポート体制」「製品やサービスに対するお客様の満足と信頼」を心がけることで、社会に貢献します。

### ■ 品質方針

1994年に八王子・土浦工場一括でISO9001を取得し、以後品質管理の改善を続けています。

(株)東京精密 品質方針

基本理念

WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう!

方針

1. 製品及び生産において法令・規制要求事項を遵守するとともに顧客要求事項を満足することを第一義として社会に貢献する。
2. 毎年度はじめに、カンパニーごとに、前年度の品質目標(重点目標)の見直しを行い、新年度の品質目標を設定して製品品質の向上に取り組む。
3. 品質マネジメントシステムのパフォーマンスの向上及び有効性に対する継続的改善を実施する。
4. ユーザーとのパートナーシップの確立による、よりUSER FRIENDLYな商品開発をおこなう。
5. トータルな品質管理(TQC)による品質向上を目指す。
6. 協力会社とのパートナーシップによる品質向上を目指す。
7. ビジネス、技術及びサービスの顧客サポート体制を拡充する。
8. 製品実現プロセスの各工程において安全、品質、信頼性のつくり込みを行い、安定供給に取り組む。
9. 品質マネジメントシステムの適用範囲は半導体社、計測社の活動、製品、サービスを対象とする。
10. この「品質方針」は社内外に開示する。

## 製品品質の維持・向上

### ■ QMSの諸活動\*

1994年に八王子・土浦両工場一括でISO9001を取得して品質管理を強化し続け、2015年9月に改定されたISO9001:2015に対応して、2017年度から新しい品質システムプログラムの運用を開始しました。新しい品質管理システムプログラムでは利害関係者のニーズや内部・外部の課題及びリスク管理に取り組むため、品質方針を改定し工場毎に品質目標を設定して品質パフォーマンスの向上に取り組む体制を構築しています。

部署の具体的な取り組みとしては、部署毎に品質目標実施計画書と品質管理システムプログラムを作成し、品質目標の実施計画を立てています。

また、品質管理システムプログラムは、3ヶ月毎に品質部会を開催し、実績を確認して進捗に対する評価と改善策を検討しています。

### ■ 変更管理の強化

#### 変更管理の強化\*

当社では、設計変更や製造変更等の変更時に伴うリスクを検証し、事前に対策することで不具合の未然防止に努めてきました。

2017年に当社の上位標準文書で変更管理規定を制定し、関連部署の下位標準文書に落とし込んで以来、この管理基準に従い変更管理をリスクアセスメントすることで、変更に伴う不具合発生リスクを低減しています。

現在は変更管理の実績データを蓄積することで、類似の変更リスクデータベースとして活用し、よりスピーディーに効率よく変更管理の運用ができるよう環境を整備しているところです。

また、2018年からは変更管理によるクレーム削減について、変更管理の有効性指標をKPIとして設定し、目標値を0.5%以下としました。

変更管理有効率[%]=

クレーム発生件数 / 変更管理実施件数 × 100%

2018年の変更管理有効率の結果は0.37%となり、目標値をクリアしました。

## グローバルで細やかなサポート体制

### ■ 半導体製造装置事業

#### 世界に広がる半導体ビジネスと グローバルなサポート体制

2018年の保守部品供給実績は、世界30か国、需要家数は410拠点となります。

(中国、台湾、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インド、インドネシア、ベトナム、米国、カナダ、メキシコ、ブラジル、ドイツ、フランス、イギリス、オーストリア、イタリア、オランダ、スイス、スペイン、チェコ、デンマーク、ハンガリー、フィンランド、ブルガリア、ベルギー、ポルトガル、ロシア)

この全世界に展開した装置を、世界10か国31カ所のサポート拠点からなるACCRETECHグループ会社でサポートを実施しています。

#### 最新の教育体制

ヘッド・オフィスのCE部門には、トレーニング専用機として、旧モデルから最新モデルまで多様な機種をトレーニングルームに設置しています。

実機を使った実技と、知識の向上としての集合教育をはじめ、製造現場での実習や技術アプリケーション部門とのコラボレーションによるトレーニングまで、多様な要望に対応できるように、スキルに合わせたカリキュラムと教育体制を準備しています。

トレーニングは少人数制を基本とし、受講者全員をトレーナーが認識しながらの進捗と、実技時間を多くする事で、高いトレーニング効果を実現しています。

また、各エリアの主要拠点には、デモ機を設置して、ローカルサイトでの基本教育や自己学習に取り組める環境作りを進めています。

日本人エンジニアの海外駐在、定期訪問を積極的に実施し、海外業務経験を通して、世界で活躍出来るエンジニアとして成長することが出来ます。

#### サポート品質の共通化とGSM (Global Service Meeting) の実施

全てのエンジニアに対して、毎年スキルチェックを行い、レベル認定を実施・管理しています。各エンジニアのレベルに合わせた実施可能業務を認定する事で、高い作業品質をお客様に提供し

ています。

さらに、ヘッド・オフィスのCE部GSE (Global Service Engineer) グループが、海外からの問合せや緊急時に対するバックアップを実施する事で、より確かな現場サポートが対応可能な体制となっています。

今年の10月で7回目となるGSM (Global Service Meeting) は、世界各国のサービスエンジニアの代表と関係者、約60名が年1回、八王子工場に集まり、フェイス to フェイスで最新情報の交換と共有化を行なっています。同一機会によるスキル向上のミーティングが共通したサービスの提供を可能とし、世界中のどのお客様にも均一でハイレベルなサービスを提供できるように日々取り組んでいます。



GSM (Global Service Meeting) の様子

#### サポート部品の共有化

365日24時間フル稼働するお客様の生産現場で稼動する装置に対して、トラブル発生時の迅速な保守部品の供給が、非常に重要となります。

保守部品は各機種の主要部品に対し国内外15拠点にCE部パーツセンターで管理されたコンサイメント部品を在庫しています。またCE Stock Manager SystemにてWeb上でどこにいても全世界の在庫状況を簡単に確認でき、共有できる等、お客様に部品を素早く提供できる体制を整えています。



## ■ 精密測定機器事業

### お客様の価値創造を加速させる最先端拠点と支援活動

東京精密の精密計測機器ビジネスは「測れないものは作れない」を合言葉とし、単に測定機器を販売するのではなく、社会に精密さや信頼性を提供する「ものづくりの原点」と考えています。

全ての“ものづくり”は“測る”というプロセスなしには成り立ちません。また、正確に“測る”ことは私たちのお客様が社会に信頼される製品を提供するために不可欠な作業です。この思いをより大きく社会に届けるために、以下の取組みを行なっています。

### メトロロジ（計測）センターの取組み

「計測と言えば東京精密」と世界のトップブランドの地位を確立すべく、「メトロロジ（計測）センター」では以下の活動を行なっています。

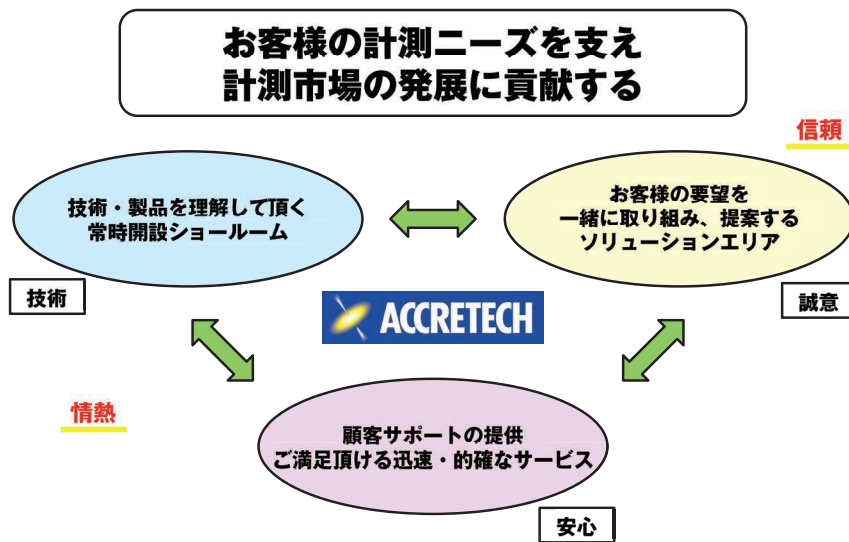


土浦計測センター

▶ <メトロロジセンターのコンセプト>

## 計測社 計測センター

信頼と情熱のコンセプト



### <当社製品、計測についての「学びの場」：【技術】>

当社測定機器をお持ちのお客様、当社測定機器を取り扱っていただいている特約店・代理店、大学・高校、地域の企業を対象に、見学会・製品勉強会・計測セミナー等を開催し、計測について理解を深めていただくとともに多種多様な製品展示を通じ多彩な計測のバリエーションに触れていただいています。

#### ○2018年度の活動実績

- ・プライベートショー、オープンハウス等 : 11回
- ・セミナー、講演会等 : 14回
- ・公的機関での講演／計測指導 : 9回

### <ソリューション提案：【信頼】【誠意】>

当センターでは、来訪されたお客様の課題に応えるさまざまな測定機器や測定手法を体験いただけるとともに、ソリューション提案や当社製品の操作トレーニングの機会提供といったさまざまなサービスを提供しています。「来て見てよかった」、「感動した」、「また是非来たい」と喜んでいただいております、お客様の価値創造の実現に実績を上げています。



<お客様サポート：【情熱】【安心】>

当センター内に「集中コールセンター」を置いて、計測に関する相談や製品の取扱い、トラブルシュートの支援を行っています。また、定期開催のトレーニングスクールによる計測指導を行うなど、当社測定機器をご購入いただいたお客様をサポートしています。

「測定機器をお持ちでない」、「お持ちの測定機器が対応する機能を有していない」等で自社内での測定が行えない場合、当社が代行して計測を行なう「受託測定」も行なっています。

- 2018年度の活動実績
  - ・コールセンター対応件数 : 11,199件
  - ・トレーニング実施 : 424回

<更なる取り組み>

当社の測定機器をご使用いただいているお客様に、顧客満足度調査アンケートのご協力をお願いしています。2019年度から、NPS (Net Promoter Score) アンケートを開始しました。NPS アンケートで得られたお客様の声を改善活動に活かし、お客様との良好なかかわりに取り組んでいきます。

海外の現地技術者の研修

精密測定機器のグローバルサービス部門では、各国のサービスエンジニアを土浦工場内のメトロロジー（計測）センターに招集し、集中的な研修・訓練を行っています。トレーニングは新人エンジニアを対象としたベーシックトレーニングと、中堅・熟練エンジニアを対象としてアドバンストレーニングがあり、グローバルサポート体制の強化を進めています。

- 2018年度の活動実績
  - ・ベーシックトレーニング : 3カ国 5名
  - ・アドバンストレーニング : 13カ国 35名

ドキュメントの多言語化

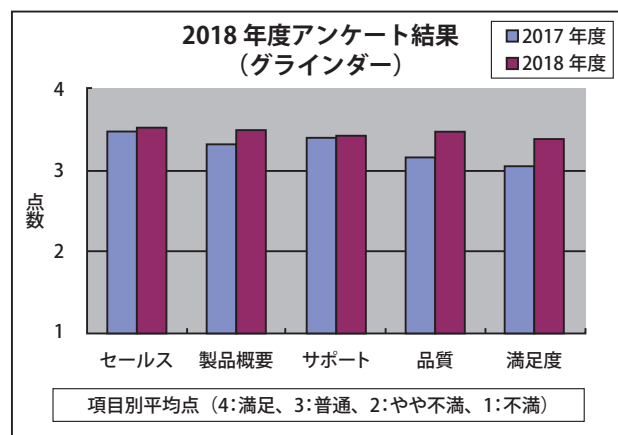
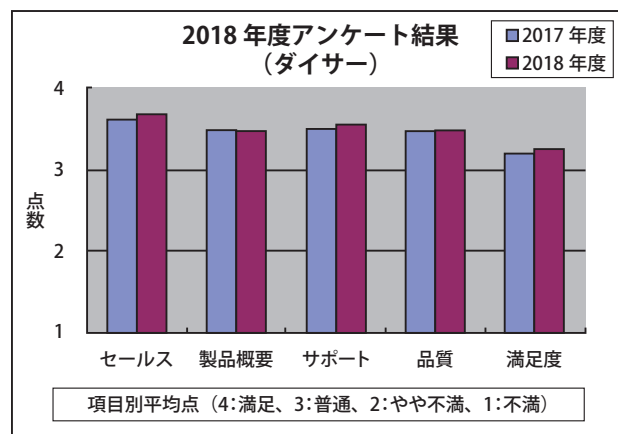
半導体製造装置のお客様のほとんどが英語を公用語として使用していますが、測定機器はご使用いただく環境やシチュエーションも多岐にわたります。このため、お客様による日常点検やトラブルシュートを可能にするために、各言語でのトラブルシューティングマニュアルや各種手順書の整備を進めています。

顧客満足追求の取り組み

■ アンケート調査に基づく改善活動

毎年当社の製品について顧客満足度アンケート調査を行い、調査結果の集計と分析を実施しています。顧客満足度アンケートの結果から、QMS活動の品質管理システムプログラムで、改善が求められる内容をテーマとして掲げて、顧客満足度向上の具体的な改善活動を実施しています。結果、昨年の顧客満足度アンケートの結果と比較して、改善が確認された項目を多数確認しました。

今年度のアンケート集計結果から、ダイシングマシンとグラインダーのグラフを例として掲載します。



また、より多くのお客様により簡単に回答いただくために、昨年よりアンケートのWeb化を実施しています。アンケートはクリック一つで簡単に入力でき、短時間で回答いただけるようになりました。web化により、集計や分析も迅速に処理が可能になり、スピーディーに結果を反映できるようになりました。

今後もお客様のご意見を反映して、顧客満足度向上に努めてまいります。

# サプライヤとのかかわり



全てのサプライヤの皆様とWIN-WINの関係を深められるよう、社会的責任を重視したサプライチェーンを構築し、ともに持続可能な成長を目指します。

## 調達にあたっての基本的な考え方

東京精密は、お客様に高機能で高品質な製品を提供するにあたり、必要となる材料や部品・サービスを提供いただく全てのサプライヤの皆様を大切なパートナーと考えています。そのサプライヤ様とのWIN-WINの関係の構築には、「安全と品質」はもとより、法令や社会規範を遵守し、「人権と労働」・「安全と衛生」・「環境」・「倫理」・「情報セキュリティ」を含めた社会的な責任をサプライチェーン全体で果たしていくことが不可欠です。

それぞれのサプライヤ様が国際社会のニーズに応える責任ある企業として自律し、当社とともに協働していくことで、サプライチェーン全体を強固なバリューチェーンとして、付加価値の高いものづくりを進めていきます。

## サプライチェーンの強化★

東京精密は、RBA (Responsible Business Alliance : IIEICC) への準拠を宣言しています。サプライチェーン全体で労働環境の安全、労働者の尊厳や環境負荷に対する企業責任など、国際社会の要求に応えるために、サプライヤの皆様にも国際基準に準拠する協力をお願いしています。

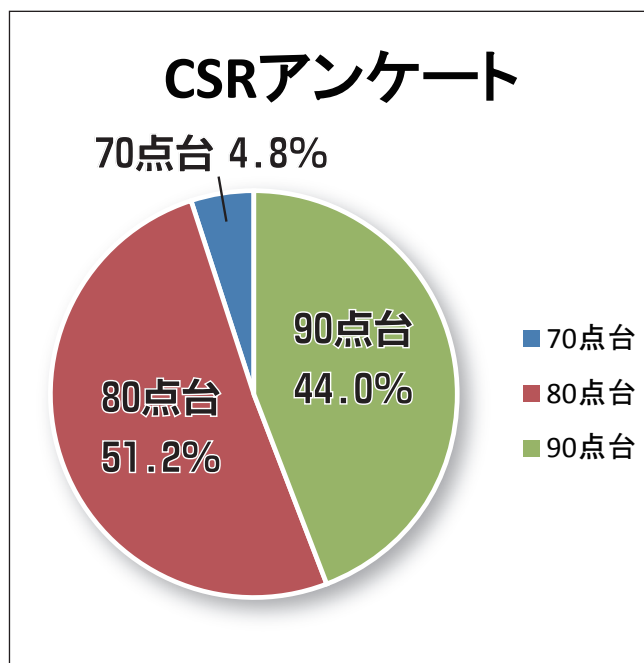
### ■ サプライヤCSRガイドラインの策定と協力依頼

RBAや国際社会の期待に応えるために、「調達方針」を掲げ「人権と労働」「安全と衛生」「環境」「倫理」「安全と品質」「情報セキュリティ」に関するサプライヤ様のガイドラインを定めた『東京精密サプライヤーCSRガイドライン』を作成しました。サプライヤの皆様には、本ガイドラインの趣旨をご理解いただき、持続可能な調達活動の推進にご協力をお願いしています。

### ■ サプライヤ調査体制の構築

東京精密ではサプライヤ様のCSR対応状況を調査するために、2016年度より「SCMチェックシート」による調査を開始しました。調査項目の大分類としては、「遵法管理」・「倫理管理」・「環境管理」・「施設設備(安全)管理」・「労働雇用管理」・「生物多様性」・「紛争鉱物」・「事業継続」の8項目について、調査採点を実施しています。この結果は、平均点88.7点(100点満点)で、90%以上のサプライヤ様が80点を超えています。分類別で点数の割合が低い項目は「労働雇用管理の女性活躍の推進状況」「生物多様性」「事業継続」でした。これらについて、サプライヤ様と協力して改

善を進めています。その他の5項目については問題無く管理されている事を確認し、認識を共有しました。



本「SCMチェックシート」による調査は、2016年より実施。調査実施サプライヤ数は、総数166社。点数の低い「女性活躍推進」「生物多様性」「緊急事態発生時の事業継続活動」の3点について、サプライヤ研修会を通して、改善を進めていく。

また、サプライヤ様を直接訪問してCSRへの対応状況や困難な点などを伺い、課題解決のための支援を話し合うなど、密接な協力関係を深めることで、サプライチェーン全体によって社会的責任を果たしていく協働を進めています。

2019年度活動については、「SCMチェックシート」から、RBA (Responsible Business Alliance : IIEICC) チェックシートへの移行を検討しています。これにより、より細かな確認を実施し、サプライヤ様との協力体制をより強固にしていきます。

その他にも、東京精密ではサプライヤ様への「環境」配慮について、別途、調査と改善をお願いしています。「環境管理体制調査書」による調査と、環境に影響がある業務を特定して「環境負荷業者登録簿」及び「環境保全状況調査書」の提出をお願いしています。

## ■ サプライヤ業者表彰の実施

東京精密では、年に1回、業者表彰を実施しています。「品質」「コスト」「納期」「協力度」「マネジメント」の5項目について評価を行い、優秀なサプライヤ様を表彰しています。

## ■ サプライヤ研修会等の実施

当社では、サプライヤの皆様へ社会的責任を果たすことの重要性をご理解いただくために、サプライヤ様が開催する研修会のCSRセミナーに参加しています。

2018年度は、「当社のCSR活動報告」「CSRの世界的潮流」「サプライチェーンの取り組み」の3つのテーマで実施し共有しました。

このセミナーで、当社が2019年1月に制定した「サプライヤCSRガイドライン」にあげた調達方針や内容を説明した上で、「確認報告書」の提出をお願いしています。

今後も、サプライヤの皆様とWIN-WINの関係を深められるよう、社会的責任を重視したサプライチェーンを構築し、ともに持続可能な成長を目指します。



サプライヤ研修会の様子

### 「東京精密 サプライヤーCSRガイドライン」概要

はじめに

1. 調達方針
2. サプライヤーCSRガイドライン
  - 「人権と労働」
  - 「安全と衛生」
  - 「環境」
  - 「倫理」
  - 「安全と品質」
  - 「情報セキュリティ」
3. サプライヤーの皆様へのお願い
4. 改訂履歴

2015年度

CSRの考え方

2016年度

「SCMチェックシート」の説明及び調査依頼

2017年度

CSRの潮流

「SCMチェックシート」前年度結果報告

当社のCSR活動報告

2018年度

当社のCSR活動報告

CSRの潮流

サプライチェーンの取り組み

# 従業員とのかかわり



従業員がいきいきと働けるように、一人ひとりの能力を最大限に発揮できる心身ともに健康で安全な職場環境の充実を図り、人材の育成を推進していきます。

## 雇用・人材育成

### ■ 雇用・人材活用に関する基本的な考え方

多様な人材がその視点や価値観を尊重し合うことで、相乗効果による新たな価値創造を目指します。ダイバーシティの促進に努め、女性や障がい者の雇用拡大を図ったり、グローバル採用のチャンスを拡大するなど、年齢、性別、人種、宗教、出身国、障がいなどにに基づく差別を排して広く人材を募っています。また、ワークライフバランスの調和を進め、心身ともに健康で安全な職場環境で職域と生活の両面における充実と成長を促します。

人材育成においては、自発的な気づきを促す各種の研修や、必須受講とカフェテリア形式を組み合わせたe-learningを提供するなどして能動的な人材の育成に努めており、優れた環境で多様な人材によって創出されるイノベーションにより持続的に成長し続ける環境の実現を目指しています。

### ■ 働き方改革の推進\*

互いの生活環境や価値観を慮る習慣の醸成や、多様性を受け入れる環境や制度の整備を行なっています。

中でも女性の雇用を積極的に進め、職域の拡充やキャリアプランの指導、及びライブイベントへの柔軟な対応など、女性の活躍を推進する活動に注力しています。

### 女性活躍推進

#### 就業規則の変更

昨年度実施した女性WGによる経営層への活動報告が行われ、その結果、「育児休業期間は子が3歳まで取得可能」、「育児時間短縮勤務は子が中学校入学まで取得可能」、「育児介護時間短縮勤務は、1日3時間まで短縮可能」など、これまで以上に働きやすい環境を整えました。

### 女性採用・在籍状況

新卒採用における女性の応募割合は微減する結果となり、採用割合においても製造や技術職での男性採用人数増加が影響し減少となりましたが、キャリア採用においても女性の技術職を採

#### 採用状況

目標	女性の応募割合 【30%】	女性の採用割合 【20%】
2017年3月時点	22.4%	15.5%
2018年3月時点	22.9%	11.6%
2019年3月時点	22.4%	11.4%

#### 従業員女性比率

内容	%
従業員に占める女性比率% (2019年3月時点)	17.0%
男性と女性の平均雇用年数の違い (2019年3月時点)	50.5%
管理職における女性比率% (2019年3月時点)	1.4%
取締役会における女性比率% (2019年9月時点)	7.7%

用を増やすなど、確実に女性社員数は増加しています。

新卒・キャリア採用活動におきまして、様々な形式で積極的に女性採用に向けた広報を取り組みます。

### 女性活躍推進に関する行動計画

#### ● 目標

1. 新卒採用の応募者に占める女性割合を30%以上とする
2. 女性正従業員の採用割合(新規学卒、高卒、中途採用合算)を全体の20%以上とする(内定者ベース)

#### ● 行動計画

1. 女性の応募割合、採用割合を増やす方針や目標の設定
2. これまで女性が採用、配属されなかった部門・部署における配属の可能性検討及び女性がいないまたは少ない部門・職種等への女性の積極的な配置検討
3. 年度ごとの新卒採用計画策定における積極的な広報方法の検討
4. 女性が満たしにくい募集・採用基準や運用の見直し(性別にかかわらず公正・公平な採用選考を行うため)
5. 女性従業員が自身のキャリア形成に対する意識を醸成するための研修実施、上司からの働きかけ
6. 女性従業員一人ひとりのキャリアプランを本人と上司で作成し、中長期的な視点で育成を行う
7. 管理職に対する女性部下育成に関する意識啓発
8. 管理職に対するワーク・ライフ・バランスやダイバーシティマネジメントに関する意識啓発

### 障がい者雇用

東京精密では、障がい者の方々も社会的に自立し、活躍できる職場づくりに取り組んでいます。その一環として、バリアフリー対応設備への改善や配属可能な職場・職務の開拓を進めています。

また、採用時に個々の適性に合った職場の検討や入社後の就労支援をハローワーク、障がい者就労支援機関、特別支援学校と連携して進めています。一方で、配属予定の職場に対しては障がい者の就労サポートやコミュニケーションに関する社内研修を実施し、障がい者が働きやすい環境づくりに取り組んでいます。雇用率は昨年度の1.9%から2.0% (2019年6月)となっており、法定雇用率(2.2%)の達成に向けて取り組みを続けていきます。

### 労働時間削減への取り組み

東京精密の2018年度の年間の所定労働時間は、「2018年度労働時間総合調査」の2018年度所定労働時間\*を約3%下回る1847.8時間(年間休日日数128日/2018年度)となっています。

労働時間の管理のため、八王子工場、土浦工場に従業員の入門・退門時間を取得するためのシステムを導入しています。このシステムで従業員が申請した出勤・退勤時間と入門・退門時間との差を確認することで勤務実態の把握を行っています。一方で、労働時間削減の具体的な施策として、毎週水曜日と賞与支給日を定時退社日としています。また、やむを得ず休日出勤をした場合の代休取得の徹底や、長期休暇制度の利用状況を管轄部門で把握し、制度の利用促進につなげています。このような取り組みの

結果、時間外労働の削減が進んでいます。(前年度比5%減)

引き続き年間労働時間の削減と休暇取得促進に対して積極的に取り組んでいきます。

※労政時報 第3959号「2018年度 労働時間総合調査」の2018年度年間所定労働時間は、1910時間57分、休日日数は119.9日

### 管理職の労働時間管理

2019年4月の労働安全衛生法の改正に伴い、管理職の労働時間管理を厳格化しました。全管理職向けに説明会を実施し、管理職以外の従業員と同様に、労働時間削減への取り組みをすすめました。全従業員の働きやすい環境整備に繋がっていきます。

### 有給休暇取得促進活動

2019年4月の労働基準法の改正に伴い、年次有給休暇5日取得の義務化への取り組みがスタートしました。法令については、2018年度下期の管理職を対象にした労務マネジメント研修や全従業員向け通知を行いました。2019年8月15日、8月16日を全社有休奨励日とし、有休100%取得達成に向けた取り組みを行いました。

### 休業制度

東京精密の休業制度は、子育てや家族の介護、病気やケガなどの事情を抱えた従業員を十分に支援するべく、法定基準を大きく上回る独自の制度を設けています。

育児休業は、子が3歳になるまで取得可能であり、2歳までの休業期間は会社から賃金の20%を支給しています。また、育児による短縮勤務は、中学校卒業まで1日3時間の短縮ができるため子育てとの両立に役立っています。

介護休業については、育児休業と同様、休業中に賃金20%を支給しており、短縮勤務も1日3時間まで短くすることが可能であり、介護をしながら仕事をする従業員を支援しています。

その他、病気やケガの長期療養の休業に対しても最大で2年半の賃金補償制度を設け、安心して治療に専念できるよう手厚い制度になっています。

### 長期休暇制度

従業員やその家族のライフプランに合わせて、毎年任意の期間に連続5営業日の「長期休暇」を取得できる制度を採用しており、ワークライフバランスの実現に寄与しています。

## ■ 人材育成の推進

### 人材育成方針

2018年4月から新人材育成体系を制定し、中長期的な視点に立った人材育成を強化しています。

グローバル化の進展による「ダイバーシティ」の観点、持続的な

「プロフェッショナルの育成」の観点から、教育研修制度を「社員の強みや能力を引き出す重要な施策」と捉えています。

『社員一人ひとりが、自主性に基づき教育研修に参加できる環境・機会(プラットフォーム)を提供する』、『会社が、社員の成長タイミングに合わせ、必要な知識習得支援を行う』という考えに基づいた構成としています。

また、研修の成果は、実務で活かすことこそが重要であり、教育研修で習得予定の知識に対して、活用可能な「場」の設定(アサインメント)まで見据えて計画を行い、受講者と上司とで共通のコンセンサスをもって取り組んでいくことを前提とした制度としています。

### 育成体系と各種研修制度

東京精密では、従業員の能力開発のための様々な研修制度を設けており、人材育成体系に組み込んでいます。キャリアレベルに合わせて実施する「階層別研修」、基礎的なビジネススキルなどを学ぶための「共通研修」、部門ごとの業務内容に合わせて専門的な知識を身に付けるための「部門研修」などを実施しています。

またe-learningシステムの導入、社外セミナーへの積極的な参加奨励などを行っており、各従業員に合わせて自己啓発ができる制度が充実しています。新しい研修も取り入れ従業員の成長に繋がっていきます。

#### 主な研修コンテンツ

研修	時間
ロジカルシンキング研修	1903
労務マネジメント研修	558
女性キャリア研修	319
新入社員研修	7084
管理職研修	800
階層別研修(管理職)	105
階層別研修(主任)	175
階層別研修(主任補)	217
合計	11161



管理職・女性活躍推進研修

## 労働安全衛生

### ■ 労働安全衛生の基本的な考え方

東京精密では、「従業員の心身の健康と安全」を第一に掲げ、安全・衛生・防災活動を推進しています。また、2016年度から全社員のストレスチェックと職場傾向の集団分析を開始し、心身ともに健康で安全ないきいきと働ける職場作りを推進しています。

### ■ 作業安全の推進\*

#### 事故率低減(KYT活動)

製造業の一般機械全般で多い災害事故は「挟まれる、切る、動作の反動や無理な動作」によるものです。

東京精密では事故率低減のため、徹底した再発防止策を全員で考え、実行しています。

また予防策としてKYT活動を展開し、事故率低減を図っています。(2017年度より、通算213活動実施)

### ■ 安全衛生の推進

#### 安全衛生委員会活動

各工場長を安全衛生統括責任者とする安全衛生委員会を組織し、環境・機械・作業等に関わる労働安全や、感染・食中毒・メンタルヘルス・化学薬品等に関わる労働衛生、自衛消防や防災・減災行動、交通安全や救急救命等に対して取締役会で承認を受けた年間計画に基づいて活動を行っています。また、年2回の内部監査を行い、その結果を監査室に提出して取締役会に報告するとともに、同委員会を監査室の監査対象としています。

#### 労働安全の取り組み

職場巡視による作業環境リスクへのアセスメントと対策、新規機械導入時や作業手順の変更時におけるリスクアセスメント等に加え、機械運転、重機作業、電気配線作業等の教育、訓練を随時実施して危険回避に努めています。

また、社内教育のほかに、業務に関する労働安全講習等を社外の教育機関で受講するなど積極的に進めています。

#### 2018年度実施事項

八王子工場	人数
新入社員(雇い入時)安全衛生教育講習	57名
フォークリフト運転技能講習	2名
玉掛け技能講習会クレーン運転特別講習	19名
職長・安全衛生責任者講習	2名
有機溶剤作業主任者講習	12名
特定化学物質及び四有機アルキル鉛等主任者講習	4名
高圧ガス保安講習	36名
土浦工場	人数
フォークリフト・玉掛け・クレーンの安全講習	34名



高圧ガス保安講習(八王子工場)



### ■ 労働衛生の取り組み

#### 職場巡視と5Sパトロール

毎週の衛生管理者による巡視と定期的実施される5Sパトロールで職場の整理整頓を推進しており、2017年度から、採点制として高得点職場を表彰する取り組みを始めました。

12部署が表彰されており、各部署の5Sに対する取組が一層強くなってきています。

また、保健所等の監査とは別に、従業員目線で社員食堂の厨房を巡視するなど、職場衛生の改善に努めています。

#### 薬品・化学物質の取り扱い

管理・使用部署に定期点検および定期数量確認を義務付けるとともに、ISO14001の内部監査員資格者による定期内部監査に加え、安全衛生委員会組織下の規制物質管理部が薬品の管理保管状況のパトロールを行っています。2018年度は同パトロールをフォロー巡視を含めて8回行いました。

2018年度は新規採用及び既存使用の見直しによる化学物質リスクアセスメントを、両工場合わせて147件(通算180件)行いました。また、規制物質の取扱いをより厳格な基準に移行する取り組みも順調に進捗しており、2018年度は3件(通算62件)の取扱い基準の制定で、現状使用されている全化学物質を網羅することができました。今後は新規で採用する化学物質に対応していきます。

### ■ 自衛消防と防災・減災の取り組み

各工場では自衛消防隊を組織して定期訓練を行い、毎年1度の火災や地震を想定した避難訓練を実施しています。また、年間計画に沿って、消防隊の中の組織である消火隊は有事の際(停電)でも的確な消火活動及びコミュニケーションが取れるようデジタル簡易無線機を準備しています。訓練も月に1~2度実施しています。その他に漏洩事故を想定した対処訓練を行って災害対応力を強化しています。

八王子工場の自衛消防隊は「2019年度八王子市自衛消防訓練審査会」で優勝し表彰されました。

土浦工場では毎年全国安全週間期間中の7月上旬に、フォークリフト・玉掛け安全講習会とケミカル洗浄剤飛散防止訓練を実施しています。安全講習会は有資格者が講師となり、フォークリフト、吊りベルト等の作業機器を使用し46名が作業安全を学びました。ケミカル洗浄剤飛散防止訓練は、洗浄剤を取り扱う工場・技術部門から従業員が87名参加し、回収キットを使った「モップ拭き取り・廃棄方法」を新入社員を含む関係者全員がOJTにより習得しました。



土浦工場のケミカル洗浄剤飛散防止訓練



このキットを使って回収します



八王子工場全部署避難訓練

緊急事態想定訓練として毎年避難訓練を全部署対象に実施しています。2018年度は地震発生を想定しBCP発動の初動対応を意識した訓練を実施しました。徒歩帰宅を前提に、避難訓練後に帰宅方面別に集合する初の試みを行い、様々な気づきがありました。反省会を実施し継続的改善とし、次回の訓練に活かしてまいります。



八王子工場自衛消防隊の優勝カップと賞状



土浦工場の全部署避難訓練



## 交通安全と救急救命の取り組み

各工場では社有車利用者（運転許可者含む）と自家用車通勤者（バイク含む）に対して、交通安全講習会の受講を義務付けています。また、毎年救命救急実習の経験者を増やし緊急時の対応に対する備えを強化しています。

>2019年度実施事項

＊八王子工場：八王子警察署による交通安全講習（177名受講）  
上級救命救急講習 1名

＊土浦工場：土浦警察署による交通安全講習（310名受講）  
普通救命講習会受講 1名



土浦工場の交通安全講習会

### ● 土浦工場無災害記録更新

土浦工場は【健康】、【安全】は全てに対して最優先のスローガンの下、従業員が安心して働ける職場を工場一丸となって長年にわたり作ってきました。2018年12月31日で連続29年間の休業災害ゼロによる無災害記録を樹立し現在も継続中です。

土浦市の神立地区工業協議会 2019年度定期総会の安全衛生部の報告で2018年度の無災害（休業災害なし）事業所の表彰を受けました。今後もより一層、安全作業に努めていきます。



岡田副工場長が受賞

### ● 土浦工場 献血協力

土浦工場は長年にわたり、茨城県赤十字血液センターの献血に協力しています。2018年度は5月と2月に実施し約40名が「400 ml 献血」に協力しました。

## ■ 社外作業の安全確保

半導体製造装置は、スーパークリーンルームと言われるごみの無い空間で、特殊なクリーンウェアを着用します。また、前工程装置で運用される、特殊ガスや薬液類も多く、最新の自動搬送ロボットで自動化された365日24時間稼働する最先端工場です。

この特殊な環境内での、設置、立上げ、修理作業には様々な危険要素が存在し、作業者の安全確保は当社の最優先事項となっています。

現場サポートを実施するC E部門では、現場作業者の安全対策の取組みとして、SEAJ装置安全教育専門委員会へ参画、2002年から開始した「SEAJ推奨安全教育」を積極的に実施、2018年までの受講者実績は、サービスインエンジニア、技術部員、物流関係者など、顧客現場作業者を対象に、約370名に及びます。

「SEAJ推奨安全教育」は、SEMI S19-1102に準拠した、国内外の半導体工場に対応した内容で、日本語、英語、中国語、韓国語の教材が有り、日本と中国に専任のトレーナーが在籍、海外のサービス拠点へも積極的に教育活動を進めています。

また、日々のKYT活動や、作業前のKYM実施等、C E部標準として、「安全作業要領書」「顧客先行動基準」「装置搬入作業安全マニュアル」を作成、作業員全員へ基本教育として実施すると共に、現場責任者に対しては、「現場責任者教育」を実施し、現場責任者へ作業員の安全第一、安全管理の徹底を実施しています。

## 心身ともに健康な職場づくり

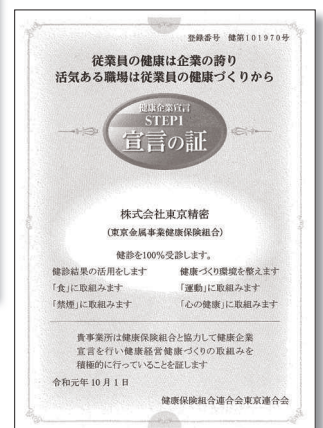
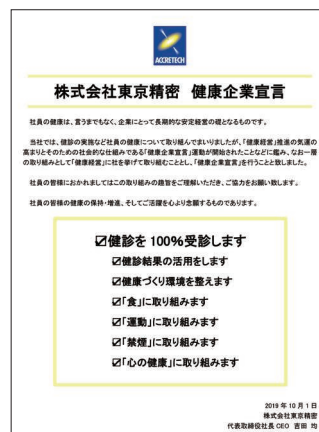
従業員の心身の不調は従業員本人やご家族だけではなく、職場や会社にとっても大きな痛手となり損失となります。健康への支援として、定期的な産業医面談の機会に加え、突発的な事情にも対応できる体制を整え、従業員をサポートしています。また、毎年実施するストレスチェックより得られる結果は、組織的な健康管理の観点からも重要な情報と位置付けており、実施に際しては従業員が受検しやすい環境を整えることで、厚生労働省より公開されている受検状況※よりも高い受検率（2018年度96%）となっています。そして、チェック結果をもとに組織的な分析を行い職場のストレスを軽減する衛生活動に結び付けています。

新たに『心の健康づくり計画』と『職場復帰プログラム』を策定中であり、心身ともに健康を増進する施策を図っていきます。

※厚生労働省労働衛生課調べ（平成29年7月）では、78%

## ■ 健康企業宣言

東京精密は2019年10月1日に内外に向けて『健康企業宣言』を行ないました。





# 株主・投資家とのかかわり



株主・投資家の皆様に東京精密への理解を深めていただけるよう、透明度の高い積極的なIR活動に努めています。

## 株主・投資家向け情報開示の考え方

株主・投資家の皆様に対し、業績・財務内容・経営戦略などの情報を正確に、分かりやすく、適時かつ公正にお伝えすることにより、企業の透明性向上に努め、長期的な信頼関係を築いていけるよう努めています。

欧州を中心としてグローバルに拡大しつつあるESG投資の浸透や日本版スチュアートシップコード策定の流れを受け、非財務面での情報開示の拡充を念頭に、「CSR報告書」を発行することとし、2018年度からの中期経営計画にはESGの取り組み目標も明記して発表しました。将来的には財務情報、非財務情報の関係性をより分かりやすくお伝えすべく、「統合報告書」による開示を目指しています。

## 積極的なIR活動

### ■ 株主総会

東京精密グループでは、毎年6月に本社のある東京都八王子市内で定期株主総会を開催しています。多くの株主様においていただけるよう、近年は「集中日」を避けて開催しています。

定款に従い代表取締役社長が議長となり、業績やマーケットの状況、東京精密グループの経営戦略、今後の業績見通し等を社長自ら説明しています。また、株主様からも多くの貴重なご意見・ご質問を頂く機会を設けることで、株主様と経営陣が直接コミュニケーションをとり、東京精密グループを深くご理解いただく場としています。

2018年度定時株主総会は6月24日に開催し、133人の株主様にご出席いただきました。ガバナンス体制や貿易摩擦の影響、業績見込みなどについて質問があり、良質なコミュニケーションを行なうことができました。

### ■ 株主通信

株主の皆様には年2回「株主通信」をお届けしています。直近では2018年度の業績や新しく東京精密グループの一員になったアクレーテック・パワトロシステムの始動の件等、業績や話題・新製品情報をお伝えしています。

[https://ir.accrettech.jp/ja/library/business\\_report/main/0/teaserItems2/01/linkList/00/link/kabunushi\\_96.pdf](https://ir.accrettech.jp/ja/library/business_report/main/0/teaserItems2/01/linkList/00/link/kabunushi_96.pdf)

### ■ 決算説明会

年度末・第2四半期決算の開示日を中心に機関投資家や証券アナリスト向けの決算説明会を開催し、社長自らが連結業績の状況や今後の見通し、東京精密グループの経営戦略などについて説明するとともに、市場動向の見通しなど、出席者からの質問に回答しています。

### ■ 個人投資家向け説明会

個人投資家を対象とした説明会を実施しています。2018年度は2019年2月に実施し、事業概要、市場環境やCSR方針を含む経営方針の説明をいたしました。多くの個人投資家の皆様にお越しいただき、活発な質疑応答が行われました。

### ■ 情報開示

東京証券取引所の第一部に株式上場しており、法令及び証券取引所の規則に従って、以下の情報を開示しています。また英文決算短信を東京証券取引所英語サイトに開示しています。

- ・連結決算の情報(決算短信、概要プレゼンテーションなど)
- ・有価証券報告書
- ・コーポレートガバナンス報告書
- ・内部統制報告書
- ・独立役員届出書 その他ストックオプションや役員変更等、投資判断に重要な影響を与える会社の業務、運営又は業績等に関する情報

また、IR専用ウェブサイトにも適時開示情報の自動連携機能、業績ハイライト表示機能、スマートフォン対応レイアウトなどを採用し、株主・投資家の皆様への情報提供をサポートしています。

# 地球環境とのかかわり



提供する製品のライフサイクルを含む全てのバリューチェーンについて環境への負荷を低減し、持続可能な社会と地球環境の維持に向け、全員力で取り組みます。

## 環境における基本的な考え方

### ■ 環境の基本理念

東京精密は「地球環境が保全されてこそものづくり」という考えのもと、「環境基本理念」を1997年に制定しました。この基本理念を表現したのが「環境基本方針」であり、全ての従業員が

事業活動において実践するために具体化したのが「環境方針」です。東京精密はこれらの理念・方針に基づき全ての事業活動を行なっています。

#### 環境基本理念

東京精密は、地球環境保全が人類共通の重要課題であることを認識し、開発・設計・生産・サービスの全域において積極的に環境保全に配慮した行動をとる。

#### 環境基本方針

東京精密は、半導体製造装置及び精密測定機器をはじめとする製品の生産、サービスを主とした事業活動において、全従業員が「この行動は地球にやさしいか」を常に配慮し、環境負荷を可能な限り少なくする。

#### 環境方針

1. 「環境管理委員会」を頂点とする、全職制を軸にした環境管理体制を組織し、揺るぎない環境保全活動を推進する。
2. 環境関連の法律、条例、協定及び本「環境方針」を遵守し、自主目標を設定して、汚染防止、環境保全に取り組む。
3. 環境配慮した製品（省エネルギー、省資源、有害物質の不使用）の開発・改善に努める。
4. 事業活動に伴う環境影響に関する以下の項目等について環境目標に定め、環境パフォーマンスを向上させるために継続的改善を行うと共に内部監査等で見直しを行う。
  - 1) 省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・リサイクル等による天然資源の有効利用
  - 2) 有害物質の適正管理と使用量の削減及び代替物質への転換
  - 3) 温室効果ガスの排出抑制による地球温暖化防止
5. 全従業員に対し、環境保全に関する教育訓練を行い意識の向上を図る。また、協力工場に対しても環境保全活動についての理解と協力を求める。
6. 事業活動のそれぞれの業務を通じて持続可能な資源の利用、気候変動の緩和や生物多様性保全を始めとした環境保全活動に取り組み、より良い地球環境の実現につとめ、社会の発展に貢献する。
7. 環境マネジメントシステムの適用範囲は半導体社、計測社の活動、製品、サービス及び事業活動に関係する工場の環境保全活動を対象とする。
8. この「環境方針」は社内外に開示する。

### ■ 内部環境監査

環境管理マニュアルに規定された励行状況を確認するため、年2回の定期内部環境監査を実施しています。毎年の指摘項目を蓄積したチェックリストに基づき、主任監査員をチームリーダーと

した2～3名が監査チームを編成し、監査を行っています。監査員は毎年試験を受けて社内資格を更新しており、主任監査員は十分な経験と能力を持った監査員の中から環境管理委員長の任命を受けて指導的立場として監査チームをリードしています。

## エコプロダクツ★

### ■ 環境配慮型製品開発

東京精密グループの製品は社会が持続的に発展するために高精度・高品質な製品を提供し続けていますが、同時に自社製品の環境に対する負荷を低減することで、持続可能な地球環境の維持にも取り組んでいます。製品開発に対して“東京精密技術標準”<sup>\*1</sup>により環境負荷低減の基準を定め、“原材料の削減”“運転時の省電力や使用する水・有害化学物質の削減”“製品の部材が含有する有害物質の詳細な管理”など、製品の製造から廃棄までの全てのプロセスで環境への負荷を配慮することを義務付けています。また、生産設備の特性として稼働時間が長く長寿命であることから、ほとんどがお客様のご使用期間に依存する環境負荷の低減に特に注力するとともに、24時間通年運転されるクリーンルームや定温計測室での使用を考慮して製品の占有床面積を縮小したり、使用する圧縮空気やバキュームの使用量削減にも取り組んでいます。

環境配慮型製品の実現に向けては、開発設計部門、購買部門、

<sup>\*1</sup> 東京精密技術標準 (Tokyo seimitsu Engineering Standard) : 頭文字を採ってTES (テス) と呼ばれています。生産活動関わる開発、設計、製造、生産管理、品質管理、サービス及び環境管理適用する原則を定めた社内規定で、拘束力と強制力を持つ規定・規格・標準・基準・要領等を含んでいます。

生産・製造部門、出荷部門といった直接部門だけでなく、営業部門、管理部門、サービス部門など間接部門も一体となったものづくりを推進するとともに、サプライ様をはじめとする社外パートナーとの協力体制も重要です。今後も社内研修等による環境配慮意識の浸透を図るとともに社外パートナーとの協力体制強化に努めていきます。

### ■ 製品開発時のライフサイクルアセスメント(LCA)

東京精密では、製品の全ライフサイクルにおける環境負荷への責任を認識し、2016年にCSR推進委員会の技術ワーキンググループ(技術WG)によって製品の製造から廃棄までの各段階における環境負荷をCO<sub>2</sub>排出量に換算する算定基準(ライフサイクルアセスメント:LCA<sup>\*2</sup>)を統一しました。この方法により求めたCO<sub>2</sub>排出量を製品開発時の必須評価項目としています。また、同時に現在生産中の既存製品のLCAも行なうことで、従来製品の改良及び開発品や新製品の従来比評価を行なっています。

<sup>\*2</sup> LCA (Life Cycle Assessment) : ライフサイクルアセスメントとは、ある製品やサービスのライフサイクル全体(調達、製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用)の各段階における環境負荷を定量的に評価する手法

### ▶ 環境配慮型製品

#### 半導体製造装置

#### 高剛性研削盤 HRG3000X



従来、シリコンウェーハの薄片化では化学物質を含有するスラリーを使って研削する仕上げ工程を持つポリッシュグラインダーを提供してきましたが、新工法によりスラリーを用いずに薄片化を可能としたHRG3000Xを開発しました。これにより、スラリーの廃液処理が不要になるだけでなく、スラリーそのものを排除したことにより、化学物質の購入・保管・排出に関する環境ストレスから開放されました。

#### スタックブローバ AltaProv



通常のシングルブローバは、電気試験測定部とウェーハ搬送部が各1ユニットで構成されています。これに対しAltaProvは、ウェーハ搬送部は1ユニットで同じですが、電気試験測定部を縦横連結し12ユニットで構成することにより、シングルブローバの最大占有床面積(保守エリアを含む)に対して、約89%減を実現した小フットプリントマシンです。



## エコファクトリー

東京精密は精密部品の加工から自社で行なっている機械メーカーです。消費するエネルギーの99%以上が生産工場の電力であり、切削及び加工に使う水の消費も少なくありません。水を使って半導体を加工する製品の生産量も増えているため、電力と水の使用量を削減する努力を続けています。

また、装置の機械部品点数が多く、部品加工や組立てに使われる紙の図面が多いため、資源消費削減の重点として紙購入量の削減に取り組んでおり、金属加工屑や加工廃液等について、できる限りリサイクルするように努めています。

### ■ 地球温暖化防止の推進\*

東京精密が排出するCO<sub>2</sub>は八王子と土浦の工場運営に使用される購買電力換算分がほとんどで、地球温暖化防止対策の重点を省電力に置いて取り組みを進めています。電力消費の効率を高めるために、空調機器やコンプレッサー等の省エネタイプへの交換やバランス運転、照明のLED化や人感センサーの設置等で生産量の増加や工場規模の拡大に対しても、中期的には生産高原単位<sup>\*1</sup>で使用電力を削減することに成功しています。

また、2015年度より八王子第5工場、2016年度より八王子第6工場で太陽光発電を開始し、2018年度の発電総量は45万kWh超となりました。これは、年間220t-CO<sub>2</sub>を超える排出ガスの削減に相当します。今後も省電力生産と再生可能エネルギーの拡大に取り組み、地球の温暖化を抑制する努力を続けていきます。

土浦工場の約3倍の電力消費となっている八王子工場では、これらの取り組みを検証する目的で、毎年第三者検証を実施しています。

<sup>\*1</sup> 生産高原単位：使用電力量(水使用量・紙購入量)/工場生産高(百万円)(百万円の生産行なう際に使用される電力や資源等)

#### CO<sub>2</sub>排出削減目標：2014年度に対し、2019年度までに生産高原単位で5%削減

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度目標
電力消費量(kWh/百万円)	384.8	367.7	416.3	370.2	335.1	365.6以下
(CO <sub>2</sub> 排出量)換算(t-CO <sub>2</sub> /百万円)	0.205	0.187	0.204	0.181	0.163	0.195以下

### ■ 省資源の推進\*

水を使う半導体製造装置の生産量が急増しているため、水の使用が年々増加しています。削減策として、純水の濾過再生装置への回収率アップと一過性冷却水の循環再利用化を検討しています。

紙の購入量については、社内の作業要領書をデータベース化してタブレットによる作業に切り替えるなど、少しずつ取り組みを進めてきており、紙の購入量は着実に減りつつあります。今後も引き続き削減を努力を続けていきます。

#### 水使用量削減目標：2014年度に対し、2019年度までに生産高原単位で5%削減

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度目標
水使用量(m <sup>3</sup> /百万円)	2.00	2.01	2.08	2.19	2.05	1.90以下

#### 紙購入量削減目標：2014年度に対し、2019年度までに生産高原単位で5%削減

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度目標
紙購入量(kg/百万円)	0.562	0.532	0.520	0.460	0.401	0.534以下

### ■ 廃棄物のリサイクル\*

梱包用ダンボールを通い箱に置き換えるなど、廃棄物の減量に取り組んでいます。

八王子工場からの廃棄物はサーマルリサイクルも含め、全てリサイクル利用となっています。

#### 廃棄物リサイクル目標：2019年度まではリサイクル率95%以上を維持

	2014年度実績	2015年度実績	2016年度実績	2017年度実績	2018年度実績	2019年度目標
リサイクル率	91.3%	96.3%	96.2%	98.3%	99.1%	95%以上

## 化学物質管理

使用及び部材に含有する化学物質について、国内と輸出先地域の法令を遵守するのはもちろんのこと、法規制外の化学物質に対しても自主基準に基づく管理を行うことで、環境及び人への影響を最小限に留めるよう取り組んでいます。

### ■ 自主基準に基づく化学物質管理

社内規定で環境を汚染する可能性のある物質を定めており、該当する物質を取り扱う場合は環境管理責任者に全て届け出ることとしています。物質ごとの取り扱い量、保管場所、最大保管量等を把握するとともに、SDS\*及び緊急対策用具を備え、不測事態対応のための定期的訓練を実施しています。

また、有害化学物質(有機溶剤等)の代替を検討し、無害または低害化の検討を進めています。

※SDS: Safety Data Sheetの略で「安全データシート」と呼ばれる。化学物質の名称や製造企業名、取り扱い法、危険性や有害性の種類、物性、環境への影響、安全対策、応急対応、緊急時の対策などに関する情報が、化学物質ごとにまとめて記載されている。PRTR法ではメーカー等の企業が化学物質の排出量や廃棄物の異動量を集計し、自治体を経て国に報告することになっていて、SDSの添付が義務付けられている。

### ■ 特定化学物質管理

扱っている化学物質のうちPRTR法特定物質の基準量を超えている2物質について届出を提出しています。また、東京都の環境確保条例で定められた適正管理化学物質については、八王子工場において5物質を使用しており届出を提出しています。

### ■ 製品含有化学物質管理

サプライヤ様に対し調達部材に含有される化学物質の厳格な管理と報告をお願いする旨の説明会を行い、これまでに400社超にご参加いただきました。

2016年度よりクラウド・システムを使ってRoHS指令、REACH規則等に対する調査を実施しています。

計測社製品については2017年7月よりRoHS指令に対応しており、EU地域への輸出については100%適合品を出荷しています。

半導体社製品は、大規模据付型産業用機器としてRoHS適用除外となっていますが、順次対応を進めています。

2018年度にはRoHS分析室を設置し、製品の含有化学物質の分析設備を準備し、解析できる環境を整えています。

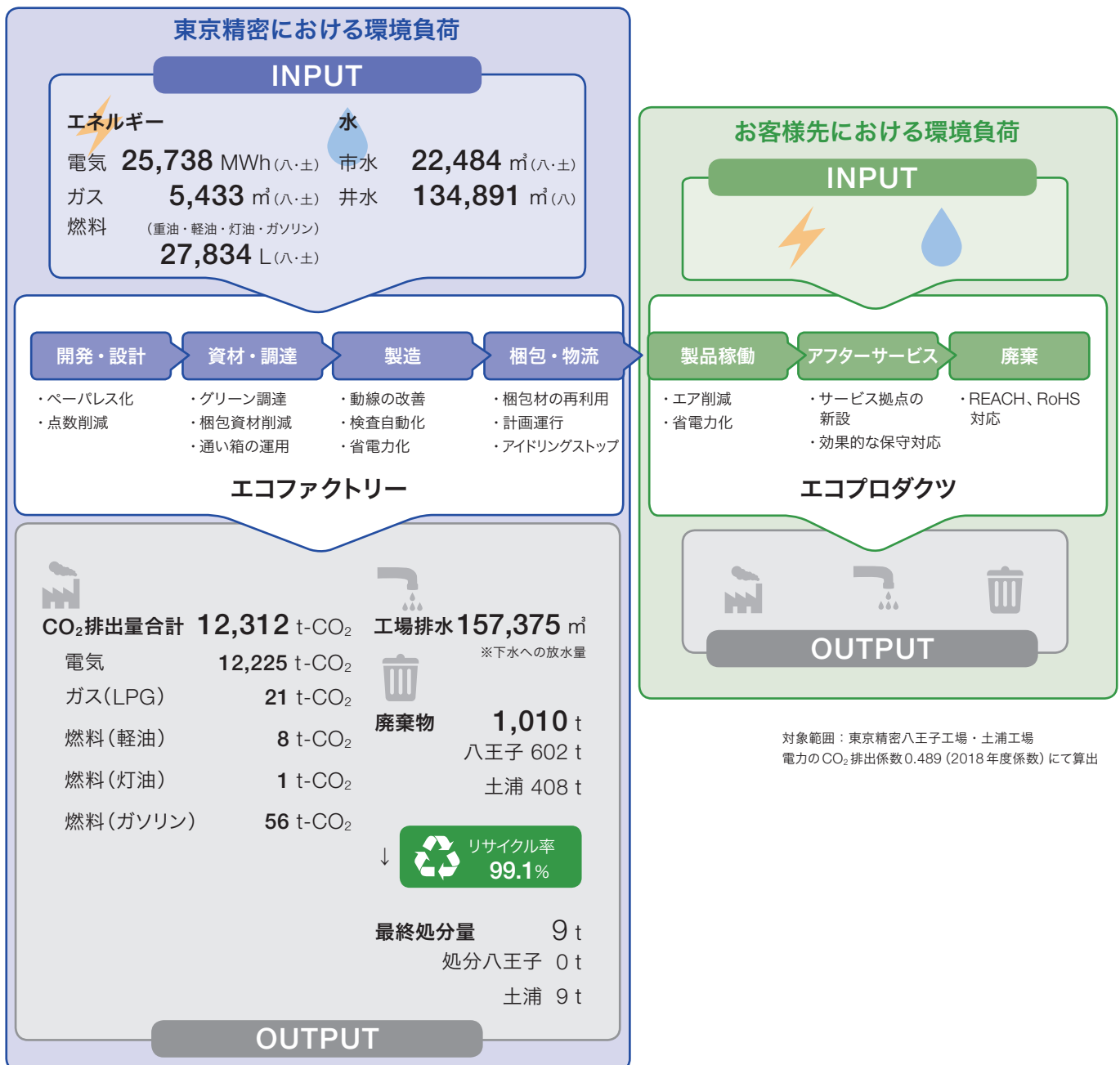


RoHS分析室



## 環境負荷の全体像

▶ 2018年度環境負荷の全体像



## 環境保全活動の歩み

1996年	7月	環境保全活動の教育訓練を開始	2006年	1月	六価クロムフリー実施
	9月	環境委員会を設立		4月	ハロン消火器の全廃完了
1997年	2月	「環境理念」制定。環境負荷調査を八王子・土浦の両工場及び各部署で開始		6月	クールビズ実施
	5月	環境管理マニュアルを制定		10月	新製品より鉛フリーはんだでの生産開始（半導体社）
1998年	3月	ISO14001 認証を八王子工場・土浦工場で一括取得	2007年	2月	優秀省エネルギー機器表彰制度でレーザーダイサが日本機械工業連合会会長賞受賞
	9月	「MOTTO（行動指針）」を制定	2008年	3月	消防総監表彰状受賞
1999年	11月	廃棄物の焼却炉を停止、その後撤去（半導体社）	2009年	11月	八王子工場「優良防火対象物認定」を更新
2000年	3月	CMP、バックグラインダ等の排水処理施設の運転開始（半導体社）	2010年	8月	東京都から道路アドプト表彰
	5月	重油ボイラーによる暖房設備、地下重油タンクの撤去（半導体社）	2011年	6月	八王子第5工場竣工
2001年	4月	ISO14001 認証を更新		11月	環境方針改定
	5月	八王子工場新本館使用開始	2012年	7月	切断・研削工具の事業開始
2002年	3月	自家用焼却炉廃棄（計測社）	2013年	3月	ISO14001 適用範囲に切断・研削工具を含め認証取得
2003年	3月	「ACCURETECHグリーン調達ガイドライン」を制定	2015年	6月	八王子第5工場太陽光パネル設置・稼働
2004年	2月	空調設備を重油ボイラーから電気式に更新（計測社）	2016年	5月	八王子第6工場竣工
	8月	「ACCURETECHグループ行動規範」を制定		12月	八王子第6工場太陽光パネル設置・稼働
	9月	環境報告書発行	2017年	6月	ISO14001 認証2015年度版取得
2005年	2月	土浦工場の特定施設廃止			
	4月	安全に関わる表彰事業所として茨城労働局長奨励賞受賞			
	4月	八王子・土浦新工場使用開始			
	6月	ISO14001 認証2004年度版取得			
	7月	サプライヤに対する六価クロムフリーの説明会を実施			



八王子第6工場 太陽光パネル

# 社会とのかかわり



事業活動を通じて社会に貢献することはもとより、企業市民として健全で持続可能な社会づくりのために、社会との対話を通して各地域の課題・ニーズを明確化し、その解決に向けた社会貢献活動を推進していきます。

## 地域社会の環境奉仕活動

### ■ 土浦地区における取り組み

#### ● エコパートナー協定

土浦市では、市と事業者とが緊密なパートナーシップを形成して地球温暖化問題、エネルギー問題およびゴミ問題を改善することにより、次世代の子供たちにより良い環境を引き継ぐことを目的として、協調して低炭素社会づくりおよび循環型社会づくりを行う土浦エコパートナー事業を行っています。当社もこの考えに合意して2016年3月末に土浦市との協定を締結し、毎年4月に前年度の1年間の活動をまとめた実施報告書と今年度の実施計画書を提出し、土浦市のホームページに情報公開しています。



参考：  
土浦市ホームページ  
エコパートナー協定  
<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page004517.html>

#### ● 「かすみがうら」の保護のために

土浦工場の近隣には茨城県の代表的な観光地「かすみがうら」があります。その「かすみがうら」をよりきれいに保つために、土浦市では近隣企業に公害防止に関する計画書の提出を求めています。当社も土浦市で事業を行う企業として、「かすみがうら」をきれいに保つために土浦市へ「公害防止計画書」を提出し、この計画に沿って「かすみがうら」の水質保全活動を進めています。

#### ● 地域美化活動\*

土浦工場では中貫公園の近隣企業と共に、毎週一回の公園周辺の清掃を実施しています。



地域美化活動の様子

2006年からは毎週月曜に当社単独で各部署持ち回りの清掃を実施しており、2018年度も前年同様に当社従業員の参加延べ人数が100人を超えました。

この長年の清掃活動により、地域の皆様の認知度も上がってきており、以前は公園周辺の道路にゴミがあふれていましたが、最近では大幅に改善されました。それでも夜間違法駐車するトラック等からのポイ捨ては無くならないため、今後も公園周辺環境をクリーンに保ち社会マナー向上の一助となるべく活動を継続していきます。

### VOICE 参加した従業員の声



計測社 土浦工場  
総務室  
篠 道治

春は「桜」、秋は「イチョウ」と季節ごとに美しい姿に彩られ、市民をはじめ多くの人々の憩いの場としてだけでなく、散歩や運動の場としても大勢の人が集まり利用される「中貫公園」。ただ残念ながら、ゴミに関してはゼロということはなく各種のゴミが落ちています。もちろん、公園を利用する人全員がゴミを散らしているわけではありませんが、一部の心無い人が散らすゴミにより公園が汚れてしまうのは大変残念です。

また、公園内よりも多いのでは？と思うほど周囲の道路にはゴミが落ちており、公園を利用しない人や車両等が捨てるゴミも含まれていると思われます。

なぜ、ゴミを不法に捨ててしまうのか？腹立たしさも感じますがなかなか改善されないのが現実。こちらに関しては、罰則の周知や見回りも含めゴミが捨てられないよう抑止の為の活動も必要なのではないかと感じます。

私自身としては、思っただけでも個人で公園内外を清掃する行動力までは持っていないので、東京精密の活動として清掃作業に協力できる機会を設けてもらえるのは大変嬉しく思っています。できれば、東京精密だけではなく土浦市の環境担当部署や中貫公園を囲む他社とも連携できれば、なお一層公園内の美化維持にもつながるのではないかと考えます。今後も、中貫公園の清掃だけではなく地域の清掃活動には積極的に出来ればと思っています。



## ■ 八王子地区における取り組み

### ● 地域行政とともに

東京労働基準協会連合会の八王子労働基準協会支部に所属して地域の労働行政の円滑な実施に協力しており、総務広報部会員として定期公報を発行しています。

八王子労働基準協会支部

☎ <http://hachirou-kyoukai.jp/index.html>

また、八王子消防協働四団体の一つである危険物安全協会・防火管理研究会の副会長として、地域の消防行政に携わっています。

### ■ 道路アドプト制度への参加\*

八王子工場では、2004年より八王子市が実施している道路アドプト制度に参加しています。「JR北八王子駅東側ロータリー」を対象とし、日常のゴミ拾いに加え、植栽の剪定や除草などの定期清掃により美観の維持に努めており、2018年度の延べ参加人数は134人でした。



また、この活動は1ヶ月間の新入社員集合研修において、カリキュラムの一部として地域貢献意識を育てています。

八王子市ホームページ「道路アドプト制度」

☎ <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/001/001/016/p006890.html>

## VOICE 参加した従業員の声



業務会社  
人事室長付  
畠山明佳子

北八王子駅はお勤めの方や学生等、多くの方々に利用されているのが見受けられます。そのようなたくさんの人々が行き交う地で、今回清掃活動をさせていただけるのは、大変意義のある事だと感じました。

活動を通じて、一見綺麗に見えるような所でも、タバコの吸い殻等のゴミが落ちていたり、雑草が伸び切っていることに気付かされました。同期と協力しながらそれらを一掃した際は、言い表しがたい達成感を覚えることができました。

感謝の気持ちを忘れず、地域に恩返しをしたいという想いで、これからもこの活動に定期的に参加していきたいと思っています。

## 業界団体とのかかわり

東京精密は自社の事業だけでなく、培ってきたノウハウや情報を各種関連団体へ活かすことで更なる業界の繁栄に繋がっています。

## ■ SEAJ (日本半導体製造装置協会)

SEAJは、半導体製造装置産業並びに関連産業の健全な発展を図るため、統計調査、及び業界の課題や新技術に関する調査、各種セミナー、講演会の開催、標準化の推進など、幅広い活動を行っている団体です。当社からも複数の従業員が組織に参加し、半導体製造装置産業の発展に向け協力しています。

## ■ ISO技術委員会への参加

国際貿易を円滑に行う上で同じ規準やルールで製品を扱う為、ISO (International Organization for Standardization)が組織され、現在は2万件を超える国際規格が制定されています。この組織の本部はスイスのジュネーブにあり、あらゆるジャンルの製品の規格を定める為、ジャンルごとに技術委員会 (Technical Committee: TC)が組織され、その数は300余りに渡ります。その中で当社に関連するのは「製品の幾何特性仕様」に関する規格を審議、制定するTC213で、ここでは長さの基準や図面寸法の記述方法、その為の測定機器の仕様基準、検査方法等のルールがいくつかのワーキンググループ(WG)に分かれて審議されます。

日本の代表委員として当社の2名が任命を受けていて、現在は三次元座標測定機の規格、真円度測定機の規格、粗さ測定機/フィルタの規格、測定不確かさの規格のそれぞれのWGに参加しています。TC213の定期会議は国の持ち回りで会場を変えながら、年2回開催され、懸案になっている新しい規格の審議の他、制定済みの規格に対する改正審議を行っています。

## ■ 精密工学会

精密工学会は工業界の発展や生産技術の向上に大きく貢献している学会で、学術講演会、講習会、シンポジウムや工場見学会、学会誌発行を行っています。東京精密は知的ナノ計測専門委員会\*1と現物融合型エンジニアリング専門委員会\*2に参加しており、知的ナノ計測専門委員会においては会計監事を務めています。学会の2019年度春季大会には、評議員として出席しました。

\*1 知的ナノ計測専門委員会: 知的なデータ処理やトレーサビリティおよび標準化を含めた技術開発に関する専門委員会

\*2 現物融合型エンジニアリング専門委員会: 3次元形状スキャニング技術(産業用X線CTや3次元サーフェススキャナー)の現物情報をデジタル化し、その情報をデジタルエンジニアリングシステム(CAD, CAM, CAE)で活用することによる新しい設計・生産手法に関する専門委員会

## ■ 日本精密測定機器工業会

日本精密測定機器工業会は、測定をはじめとする計測全般に関する総合展示会の開催、技術及び品質の向上に資する標準化の推進、他団体との連携による講習会の開催などを通じ、日本の精密測定機器産業の振興に大きく貢献している団体です。当社からは各種部会、委員会、展示会運営等に積極的に参加し、精密測定機器産業の発展に大きく貢献しています。2018年度はJIMTOF2018(日本国際工作機械見本市)における同工業会・CMM部会\*3主催セミナーの企画と開催を行いました。隔年開催される今後のJIMTOFでもセミナーを主催していきます。また、CMM部会ではJISガイドブックの編集作業も推進しています。

\*3 CMM: 三次元測定機 (Coordinate Measuring Machine、略称CMM)は、立体を三元的に計測できる測定機

# グループ会社紹介 1

東京精密グループの関連会社をご紹介します。

## 東精エンジニアリング

### 会社概要

- 設立年月日：1969年4月15日
- 本社所在地：茨城県土浦市東中貫町4番6
- 代表者：代表取締役 田子 一弘
- 売上高：16,026百万円（2018年度）
- 従業員数：503名（2019年3月31日時点）  
（注）従業員数は当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含みます。
- URL：http://www.toseieng.co.jp/company/
- 拠点情報：国内4工場、13サービス拠点 海外11拠点



### CSR活動トピックス①

#### ・コンプライアンス・社内規程の周知

東精エンジニアリングは、すべてのステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指して、コーポレートガバナンスとコンプライアンスの強化に取り組むと共に、経営の健全性と透明性の確保に努めています。適切な意思決定により持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現します。

また、「ACCRETECH 行動規範」を始めとする、社内規程・社内規則の周知徹底を目的として、社内ネットワークにて、常に閲覧確認ができる体制を整えとともに従業員の理解度向上の取り組みを行っています。

### CSR活動トピックス③

#### ・労働安全衛生

事業所ごとに設置している安全衛生委員会を毎月開催しています。労働安全衛生法等の法令順守だけでなく、職場における従業員の安全の確保や快適な職場環境の提供に努めています。また、この委員会活動の一環として、工場内を定期的に巡回巡視し、労働災害ゼロに努めるとともに「5S3定」活動につなげています。他の取り組みとして、定期的に茨城県警より講師を招き交通安全講習会（神立工場の全従業員を対象）を開催しています。社員一人ひとりが安全運転の重要性、意識を高める良い機会となっています。



CSR活動の様子

### 事業内容

当社は、株式会社東京精密のグループ会社として、同社製品のサービス、及び測定自動化・省力化機器の開発・製造を行うことを目的として1969年に創立されました。創業以来、「測れないものは作れない」との考えを基本にして、精密加工分野への各種精密測定機器の提供と、それら測定機器のサービス業務を通じて技術の蓄積を図ると共に業容の発展に努めてきました。特に当社では、自動車、ベアリング、家電及び各種エレクトロニクス製品等の生産ライン向け自動計測機器の開発・製造を専門に行ってきました。また、これら精密技術をベースにして半導体製造装置分野にも進出し、現在では当社の主要部門の一つに成長しました。

今後とも、自動計測機器、半導体製造装置の分野において、東京精密グループのMOTTO（行動指針）である「WIN-WINの仕事で世界No.1の商品を創ろう」のもと、継続的に世界No.1製品と、充実したサービスサポートを提供し、更なる飛躍を目指してまいります。

### CSRへの取り組み

東精エンジニアリングは、東京精密グループとして「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」ことを企業理念としています。この企業理念を実践することで、持続的な成長を実現し、企業価値を高めていくことを目指しています。当社では取締役会を頂点とし、新たに「CSR推進グループ」を立ち上げそれぞれの分野で様々なCSR活動を行っています。

### CSR活動トピックス②

・働きがいのある人間らしい仕事(ディーセントワーク)の推進  
働き方改革関連法、次世代育成支援対策推進法の遵守はもとより、性別、人種、国籍、障がい、年齢、雇用形態などの差別なく、すべての従業員に「働きがいのある人間らしい仕事」を推進しています。

労働環境の充実においては、育児休業制度、介護休業制度など各種制度の整備に取り組み、また、長時間労働削減の一環として、定時退社日を設け、ワークライフバランスの充実に努め、働きやすい環境を整えています。

### CSR活動トピックス④

#### ・地域貢献活動（スポーツ振興活動 / こどもを守る110番の家）

神立工場近くにあり、神立野球場の利用者様を対象に毎週土日祝日に当社駐車場を開放しています。土浦市役所と連携し、地域の方々のリラクゼーションやスポーツ振興に協力できるよう今後も取り組んでいきます。

また、当社神立工場を神立地区のこどもを守る110番の家（避難・保護場所）として登録しています。地域の皆様の安全に少しでも貢献できるよう今後も各種施策を図ってまいります。

## トーセイシステムズ

### 会社概要

- 設立年月日：1985年10月1日
- 本社所在地：東京都八王子市石川町2968-2（株）東京精密工場内
- 代表者：川村 浩一
- 売上高：2,269百万円（2018年度）
- 従業員数：119名（2019年3月31日時点）
- URL：https://toseisystems.co.jp/
- 拠点情報：国内2拠点、海外0拠点



### インターンシップ

学生の為のインターンシップでは、教育用ドローンを使った、ものを動かすといった組み込みソフトウェアの初歩のプログラムとなっており、学生から好評を得ています。

### 事業内容

東京精密の製品開発をソフトウェアの分野から支える100%出資の関連会社です。

東京精密の半導体製造装置、計測装置の制御・測定を行う「組み込みソフトウェア」をはじめ、装置に付随する「Windowsアプリケーション」の開発を担っています。

また、ここ数年では、東京精密の基幹システム（ERP）入れ替え作業では、要求分析から開発、運用サポートまで一連の作業を行っています。

基幹システムに関しては今後も請負える作業を広げて行く事を東京精密から期待されており、当社としても力を注いでいます。組み込みソフトウェア、Windowsアプリケーション、基幹システムといった幅広いソフトウェア開発を行う為に、採用に関しては、ソフトウェアの適性を考慮し、学部、男女不問で新卒、中途採用を行っています。

半期に一度開催する全社員が一同に介しての改善提案発表会も18回を数えるまでになっており、日頃の業務成果報告、新技術の導入事例などを発表する事で社員間で情報交換も積極的に行っています。

### ISO27001

ISO27001（情報セキュリティ）の取得に関しては、1年目に官公庁業務担当部署、2年目に管理部の取得を行い、3年目の今年では基幹業務担当部署の取得を目指しています。

基幹業務を行う上でもISO27001の取得は重要であるとして、担当部署は日々取得に向けて行動をしています。

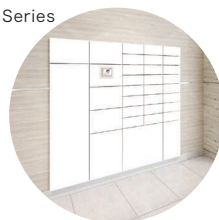
## 東精ボックス

### 会社概要

- 設立年月日：2001年9月1日
- 本社所在地：東京都八王子市石川町2968-2
- 代表者：高野 英明
- 売上高：957百万円（2018年度）
- 従業員数：41名（2019年3月31日時点）
- URL：http://www.toseibox.com/
- 拠点情報：国内4拠点、海外0拠点



TA Series



TR Series



### 事業内容

東精ボックスは“Safety、Comfort and Relief”をモットーに安心してご利用いただける宅配ボックスを通じてより豊かな住環境を提供し、社会に貢献してまいります。宅配ボックスはお客様の不在時荷物受け取りシステムとして利用されてまいりました。昨今、インターネットショッピングの増加により物流量も増え、お客様の生活スタイルにあわせて宅配ボックスを利用する機会が一段と増えています。

当社ではお客様のセキュリティの向上、操作性向上、及び建物の内装に調和するステンレス製や各種塗装色の仕上げ製品をお客様のニーズに合わせた各種タイプを取り揃え供給しています。個人認証としての非接触型ICカードや指紋、静脈を使用したシステムや、扉の自動オープンタイプが好まれています。

これからも、未来の社会に貢献できるように、より良い製品・サービスの供給に努めると同時にCSR活動にも積極的に取り組んでまいります。具体的CSR活動としてe-learningを使用した行動規範、情報セキュリティの教育を全員に受講させ、意識付けを行いました。今後はハラスメント教育を予定しています。また、保守契約書の管理を見直し、管理体制を強化しました。



※トーセイシステムズと東精ボックスは東京精密のCSR活動と一緒に活動を行っています。

# グループ会社紹介 2

東京精密グループの関連会社をご紹介します。

## アクレーテック・パワトロシステム

### 会社概要

- 設立年月日：1999年10月1日
- 本社所在地：福島県石川郡古殿町大字松川字大作50番地
- 代表者：鈴木 誠一
- 売上高：2,696百万円（2018年度）
- 従業員数：120名（2019年3月31日時点）
- URL：<https://www.acct-powerro.jp/>
- 拠点情報：国内5拠点 海外0拠点



### 事業内容

当社は、電源技術をベースに、二次電池・キャパシタや燃料電池の研究・開発・製造などにおいて必要不可欠な充放電試験装置や電池の評価受託サービスを提供しています。

### スマートエネルギー社会発展への貢献

とどまることなく進歩し続ける電気エネルギーの活用において電源技術の進歩はこれまでの人類の様々な夢を形にしてきました。電気エネルギーを活用するうえでの大きな課題として「電気エネルギーを蓄え&必要な時に、必要な所で、必要な量を使える」ことがあります。この課題を解決するために、さまざまな二次電池の進化がおこっています。当社の充放電装置および電池評価受託サービスをお客様へ提供していくことで、この二次電池の進化によるスマートエネルギー社会の発展に貢献してまいります。

充放電試験装置（Energy Testing System）



## ISO26000対照表

ISO26000の中核主題	課題	東京精密の取り組み
組織統治	1. 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ごあいさつ</li> <li>●東京精密のCSRの考え方</li> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●コーポレートガバナンス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●コーポレートガバナンス</li> <li>●コンプライアンス</li> <li>●リスク管理</li> </ul> </li> </ul>
	2. デューデリジェンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●サプライヤとのかかわり</li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材育成</li> </ul> </li> </ul>
3. 人権に関する危機的状況		
4. 加担の回避		
5. 苦情解決		
6. 差別及び社会的弱者		
7. 市民的及び政治的権利		
8. 経済的、社会的及び文化的権利		
労働慣行	9. 労働における基本的原則及び権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材育成</li> <li>●労働安全衛生</li> </ul> </li> </ul>
	10. 雇用及び雇用関係	
	11. 労働条件及び社会的保護	
	12. 社会対話	
	13. 労働における安全衛生	
14. 職場における人材育成及び訓練		
環境	15. 汚染の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●地球環境とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●環境における基本的な考え方</li> <li>●エコファクトリー</li> <li>●エコプロダクツ</li> </ul> </li> <li>●社会とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会の環境奉仕活動</li> </ul> </li> </ul>
	16. 持続可能な資源の使用	
	17. 気候変動の緩和及び気候変動への適応	
	18. 環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	
公正な事業慣行	19. 汚職防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●コーポレートガバナンス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンス</li> <li>●リスク管理</li> </ul> </li> <li>●サプライヤとのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライチェーンの強化</li> </ul> </li> <li>●株主・投資家とのかかわり</li> </ul>
	20. 責任ある政治的関与	
	21. 公正な競争	
	22. バリューチェーンにおける社会的責任の推進	
	23. 財産権の尊重	
消費者課題	24. 公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報及び公正な契約慣行	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●コーポレートガバナンス</li> <li>●お客様とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●顧客満足追求の取り組み</li> </ul> </li> <li>●サプライヤとのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●サプライチェーンの強化</li> </ul> </li> <li>●地球環境とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●エコプロダクツ</li> </ul> </li> </ul>
	25. 消費者の安全衛生の保護	
	26. 持続可能な消費	
	27. 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	
	28. 消費者データ保護及びプライバシー	
	29. 必要不可欠なサービスへのアクセス	
	30. 教育及び意識向上	
コミュニティの発展	31. コミュニティへの参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ACCRETECHグループ行動規範</li> <li>●従業員とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●雇用・人材育成</li> </ul> </li> <li>●社会とのかかわり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域社会の環境奉仕活動</li> <li>●業界団体とのかかわり</li> </ul> </li> </ul>
	32. 教育及び文化	
	33. 雇用創出及び技能開発	
	34. 技術の開発及び技術へのアクセス	
	35. 富及び所得の創出	
	36. 健康	
	37. 社会的投資	

MEMO

A large grid of light blue lines on a white background, covering most of the page below the 'MEMO' header. The grid consists of approximately 24 columns and 36 rows of squares.

MEMO

A large grid of graph paper for taking notes, consisting of a 20x30 grid of small squares. The grid is light blue and occupies most of the page area below the 'MEMO' header.



八王子・土浦工場一括でISO9001、ISO14001を取得

株式会社 東京精密

CSR推進委員会

〒192-8515 東京都八王子市石川町2968-2

TEL : (042) 642-1701 FAX : (042) 642-1798

URL : <http://www.accretech.jp>

発行：2019年10月

A-015-J-1910